

孟德斯鳩著
何禮之重譯
萬法精理
第九冊
自卷十九
至卷二十

24092

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學門		
法律部		
種 目	款	叢書項
全 18 冊ノ内第 9 冊		
分類 番號	第	號

縣福師範學校

書	門	部	番	號
	民			八二
				冊ノ内

T1A1
23
Ka11ba

圖書集成



福岡教育大学蔵書

孟德斯鳩著
何禮之重譯

萬法精理

明治九年
一月刻成
何氏藏版

萬法精理第九冊目次

卷之十九 國民ノ氣象、道義、慣習ヲ組織セル主義

ニ關スル法律ヲ論ス

第一回 總論

第二回 良法ヲ接受スル爲メニハ民心ヲ脩養

セサル可ラサルノ論

第三回 暴政ノ論

第四回 人類ノ氣象ヲ論ス

第五回 國民ノ氣象ヲ變化セシムルニ就テ注

意スヘキ適度

第六回 各事皆ナ改革スヘキニアラサルノ論

萬法精理

卷之十九 目次

何氏藏版

第七回 雅典人羅基頓人ヲ論ス

第八回 交遊ヲ好ム氣質ノ效果

第九回 虛榮ヲ好ム性情即チ國民ノ傲慢心ヲ論ス

第十回 西班牙人支那人ノ性質ヲ論ス

第十一回 餘論

第十二回 專制國ノ風俗慣習ヲ論ス

第十三回 支那人ノ行儀ヲ論ス

第十四回 國風民俗ヲ豹變セシムル方策ヲ論ス

第十五回 家政ノ國政ヲ感動スル論

第十六回 制法者カ人類ヲ治ムル所ノ主義ヲ混

淆セシ所以ヲ論ス

第十七回 支那政府特有ノ性質ヲ論ス

第十八回 前論ノ效果

第十九回 支那人ノ宗教、法律、風俗、慣習ヲ混淆シタル理由

第二十回 支那人ニ意外ノ奇癖アルヲ論ス

第二十一回 法律ノ國風民俗ニ關涉セサル可ラサル所以ヲ論ス

第二十二回 全上

第二十三回 法律ノ風俗ニ淵源スル所以ヲ論ス

第二十四回 全上

第廿五回 全上

第廿六回 全上

第廿七回 法律ハ以テ國風民俗ヲ陶冶スルノ原
行タル所以ヲ論ス

卷之二十 貿易ノ性質及ヒ其差別ニ關涉スル法

律ヲ論ス

第一回 貿易ノ論

第二回 貿易ノ精神ヲ論ス

第三回 人民ノ貧窮ヲ論ス

第四回 政体ノ異ナルニ從テ貿易モ亦同シカ
ラサルノ論

第五回 經濟上ノ貿易ヲ營ム國民ヲ論ス

第六回 航海ノ業廣遠ニ及ヘルノ效果

第七回 英國ノ貿易ノ精神ヲ論ス

第八回 時トシテハ經濟上ノ貿易ヲ制限セザ
ル可ラサル所以ヲ論ス

第九回 貿易ノ制禁ヲ論ス

第十回 經濟上ノ貿易ノ爲メニ設立シタル制
度

第十一回 全上

第十二回 貿易ノ自由ヲ論ス

第十三回 何物カ能ク此自由ヲ毀傷スルヤノ論

第十四回 商品沒收ノ貿易律

第十五回 商人ヲ捕縛スル論

第十六回 至美ノ法律

第十七回 ロード島ノ法律

第十八回 商法裁判官ヲ論ス

第十九回 君主親ヲ貿易ヲ營ム可ラサルヲ論ス

ス

第二十回 全上

第二十一回 立君國ニ於テ華族ノ貿易ヲ營ムヲ論

ス

第二十二回 特格ノ考論

第二十三回 貿易ハ如何ナル國民ニ害アリトスル

耶

萬法精理卷之十九

何禮之譯

國民ノ氣象、道義、慣習ヲ組織セル主義ニ關スル法律ヲ論ス

第一回 總論

此一卷ノ題旨ハ其區域極メテ廣大ナルヲ以テ茲ニ胸中ニ顯象スル所ノ萬事ニ就キ當サニ其制度文物ヲ考究スヘシ故ニ其實理ノ所在ヲ發見センカ爲メニハ必ス紆餘曲折ノ路ニ由ラサルヲ得ス

第二回 良法ヲ接受スル爲メニハ民心ヲ脩養セサル可ラサルノ論

日耳曼人カ羅馬ノ虐政ニ堪エサリシハ、ワリエス馬ノ顯官ニテ日耳ノ設置セル裁判廳ヲ以テ其最トセリ、○ラジーン人ハヂエスヂニヤン帝ノ勅令ニ依リ、國王ノ弑セルモノヲ懲治センカ爲ノ、ソノ部落中ニ裁判廳ノ設立アリシヲ視テ、最モ恐ルヘキノ暴舉ト爲セリ、○ミトリダテス（按）ボントカ、ソノ人民ヲ教唆シテ羅馬ニ叛カシムルノ論中ニモ、亦口ヲ極メテ其訴訟ノ規則ヲ設立セシヲ怒責セリ○パルトヤン人ノ如キハ其國王カ羅馬ノ教育ヲ受ケ倨傲ノ風ヲ破テ臣民ニ謁見ヲ許容セシヲ見テ實ニ忍ノ可ラサルノ失行ト爲セリ、○要スルニ未タ自由ノ真味ヲ嘗

メサル國民ノ、更ニ自由ヲ容ルヘキノ器量ナキハ恰モ濕地ニ住メル人清涼ナル空氣ニ觸レテ心神却テ不快ヲ覺フニ異ナラス
勿尼西ノバルビーナル者、曾テバクー（按）印度國王リテ國王ニ謁見セシ時、國王、ソノ勿尼西ニハ絶トテ君主無シト言ヘルヲ聞キテ大笑絶倒シ殆ト其左右ト説話スルヲ能ハサリシト、斯ノ如キ人民ハ如何ナル制法者アリト雖モ決シテ民主政ノ建置ヲ謀リ能ハサル可シ

第三回 暴政ノ論

暴政ニ虚實ノ二類アリ外壓ノ力ニ屈從セサルヲ得

ス之ヲ暴政ノ實ナルモノト言ヒ人民ノ意中ニ浮動
スルノミニシテソノ實形ナキ之ヲ暴政ノ虚ナルモ
ノト云フ即チ治者ノ施設スル所以當時ノ人心ニ適
應セス國民ヲシテ大ニ畏懼ノ情ヲ起サシムル是レ
其虚ナルモノナリ之ヲデイヨーニ聞ケリオーグスト
スハ曾テロムルス羅馬建國ノ始祖ノ尊稱ヲ希望シタリシ
カニ人民之レヲ視テ王號ヲ僭稱スルノ底意ナリト
シ大ニ恐懼ノ心ヲ生セルト聞キ遂ニ其事ヲ中止セ
シ羅馬上世按未タ帝國トナラザリ前ノ人民カ誰何ノ問ハス專
制ノ權ヲ掌握スルヲ肯セスシテ痛ク王號ヲ稱ス
ルモノヲ嫌惡セル斯ノ如シ然レニ諛撒シヤルオーグスト

ス及ヒトリムウ井ルス三頭專ノ政職ノ如キハ嘗テ國君ノ實

權ヲ操攬セリト雖モ陽ニ貴賤無別ノ形貌ヲ存シ如
フルニ自ラ奉スルヲ甚タ廉儉ニシテ絶テ外國帝王
ノ驕奢ニ倣ハサリシヨリ一人ノ之ヲ嫉惡セシモノ
無キヲ見レハ當時ノ羅馬人ハ特リ國王ノ虚器ヲ擁
スルヲ惡ミテ其實權ヲ竊ムヲ患フモノニ非サル
ヲ以テソノ斷シテ國王ヲ奉戴セスト一致決定セシ
モ畢竟共和政ノ風俗ヲ維持シテ東洋立君國ノ制度
ヲ用井スト謂フニ過キス固ヨリ實權ノ有無ニ拘ハ
ラサルモノナリ
氏又言フアリ曰ク羅馬人ハ曾テオーグストスノ制

定セル法律ノ峻酷ナルヲ憤リシカ(曩キニ黨派ノ爭亂ニ因テ都城ヲ追黜サレタル)優人パイレードカ其罪ヲ赦サレテ復歸スルヲ視テ釋然不平ノ心ヲ氷解セリト然ラハ則チ氣質ノ人民カ唱フル所ノ暴政ハ必ス惡法ヲ制定スルノ謂ニアラスシテ全ク一優人ノ國ヲ逐ハル、カ如キモノニ在リト謂ハサルヲ得ス

第四回 人類ノ氣象ヲ論ス

人類ノ性情ニ交感ヲ生セシムル所ノ原因ハ即チ氣候、宗教、法律、政圖、故例、道義、風俗等ノ數件ニシテ固ヨリ一端ニアラス之ヲ一國人民ノ氣象ト謂フ而シテ

此衆因ノ中若シ一因ノ作用剛強ニ過キル時ハ必ス他ノ一因ノ衰弱ヲ致スモノナリ、見ヨ野蠻ノ民ハ大抵性理、氣候ノ二因ニ制御サレ支那人ハ慣習ニ因循シ、道義德行ハ大ニ古ノ斯巴爾達ニ勢力ヲ有シ、政治公明、風俗淳樸ハ一時羅馬ノ時好タリシヲ

第五回 國民ノ氣象ヲ變化セシムルニ就テ

注意スヘキ適度(按第五回第六回ハ論スルモ、如シ) 專ラ個人ノ性質ヲ

今一個ノ國アラシニ其住民ノ性情溫和忠直ニシテ好テ同氣ニ交リ互ニ思想ヲ通シ又度量恢濶、氣象英邁ニシテ其舉動敏捷活達甚タ名譽氣節ヲ尚ヒ敢テ

細謹小行ニ拘々タラサルモノトセン耶果シテ然リ
トセハ制法者ノ治術能ク（人民ノ稟得セル）此氣質ヲ
檢制シ得ルニアラサレハ決シテ法律ノ作用ヲ恃ミ
テ以テ（其外ニ顯ル、處ノ）風俗ヲ束縛ス可ラス故ニ
爲政ノ要ハ苟モ人民ノ行儀不善ニ傾ク太甚シキニ
アラサルヨリハ縱令其中ニ些少ノ瑕疵アラシムル
モ未タ大患トスルニ足ラサルナリ
婦女ノ放逸以テ檢束ス可シ其行儀ヲ革ムルノ法律
以テ制定スヘシ而シテ又其奢侈ヲ抑シテ儉素ヲ勸
ム可シ然リト雖モ此改革ヲ行フカ爲メニ復タ一國
人民ノ因テ以テ財源ト認ムル所ノ志趣雅致ヲ損傷

シ從テ異邦ノ人ヲ招徠スル處ノ文物ヲ減殺セサル
ヲ保テ難シ制法者ノ宜シク三省ス可キ所ナリ
國民ノ氣象苟モ政府ノ主義ニ乖戾セサルノ間ハ其
氣象ニ循テ睽違セサルヲ立法ノ職分ナリトス蓋シ
事ヲ成シ功ヲ奏スルハ未タ自由ノ理ニ則リ天性ノ
趨ク所ニ循フヨリ容易ナルモノアラサルヲ以テナ
リ

氣質活達ニシテ華美ヲ喜フ處ノ國民ニ道學者ノ態
度ヲ學シムルモ決シテ内治外交上ニ一點ノ國益ヲ
生スルヲ無カルヘシ故ニ苟モ國民ノ性習ニ戾ラサ
ル片ハ輕佻ノ行華美ノ風ニ率由セシムルモ更ニ憂

患トスルニ足ラサルナリ

第六回 各事皆ナ改革スヘキニアラサルノ
論

一士人前文ニ類似セル氣質ノ國民ヲ論シテ曰ク宜シク其自然ニ任スヘシ(輕々手ヲ下ス勿レ)若シ適虧缺ノアルアレハ必ス性理ノ良能自ラ能ク之ヲ補足ス可シ抑モ彼ノ國民ハ活發輕快ニシテ急遽躁進ノ弊アルヲ以テ毎ニ範圍ノ外ニ出テ、咎行ヲ招クアルヲ免レスト雖モ此活達ノ氣質ハ復タ溫雅ナル性情ノ胚胎スル處トナリ之ニ因テ以テ世人ニ交ル可ク、麗質女子ニ親シム可キ雅趣風致ヲ領得シ轉々以

テ活潑躁進ノ弊ヲ掩ヒ得可キナリ

彼國民ノ淺慮事ニ慎マサルト其稟質ノ美良ナルト相合シテ始メテ客ヲ好ミ人ヲ親シム氣象ヲ制限スヘキ(其固有ニアラサル)所ノ法律ヲ生スルニ至ル可シ故ニ曰ク其自然ニ任シテ輕々手ヲ下ス勿レト

第七回 雅典人羅基頓人ヲ論ス

又其士人ノ言ニ曰ク古ノ雅典人ノ性情ハ頗ル彼ノ國民ニ類似セリ何ソヤ雅典人ハ樂趣行勢ノ二事ヲ混全シ、政事堂ニ於テ諧謔ヲ好ム、猶ホ劇場ニ於テ之ヲ喜フニ異カラサルヨリ此氣質ハ政事ヲ討議スルノ初メニ顯レ始終相伴フテ其決定ニ至ラサレハ

止マサルモノナリ之ニ反シテ斯巴爾達人ハ性質嚴厲沉重ニシテ其怡悦ヲ博スルノ容易ナラサル恰モ雅典人ヲ困窮ノ地ニ在ラシムルト一般ナリ

第八回 交遊ヲ好ム氣質ノ效果

夫レ人民ノ性情ハ交遊ヲ喜フニ從テ益能ク自他ノ風俗ヲ觀察シ其疵瑕ヲ睇破スレハ其豹變ノ美ヲ致スヲ復益容易ナルモノナリ而シテ又氣候ノ交感ニ依リテ交通ヲ好ム國民ノ如キハ其風俗ヲ改化スルヲ以テ娛樂ト爲シ改化ヲ樂シムノ性情即チ其志趣トナレリ

麗質婦女ノ交際盛ナルニ從テ其風俗頽敗シテ始テ

志趣ナルモノヲ生ス即チ他人ニ勝レテ自ラ快樂ヲ求メント欲シ因テ華裳袿服ノ風俗ヲ成シ自ラ樂シムヨリモ他人ノ怡悦ヲ買ハント欲シ因テ時好新樣ノ媒妁トナル是レナリ而シテ此等ハ僅カニ人心ヲ轉一轉スルニ過キサルモ終ニ一社會ノ風習ヲモ更改スヘキニ至ルカ故ニ固ヨリ忽諸ニ付ス可テサル處ナリ

第九回 虛榮ヲ好ム性情即チ國民ノ傲慢心

ヲ論ス

虛榮ヲ喜フ民心ハ其政府ノ利タルハ猶ホ傲慢心ノソノ政府ノ害タルニ異ナラス今其證左ヲ確知セント欲

セハ這邊ニ虚榮ヲ好ム心情ノ結果タル工藝技術風
致雅趣ノ如キ無數ノ利益ヲ列舉シ那邊ニ傲慢ノ氣
質ニ淵源スル處ノ懶怠貧困及ヒ百事ノ頽敗審カニ
之レヲ言ヘハ自他ノ別ナク都テ其國民ヲ破壊スヘ
キ事情等數多ノ弊害ヲ條陳シテ足ランノミ且懶怠
ノ傲慢ノ果實トナリ勤勞ノ虚榮ヲ好ム心情ノ應效
タルハ西班牙人カ傲慢ノ氣アルヨリ工藝ノ力作ヲ
忌ミ佛蘭西人カ虚榮ヲ慕フカ爲メニ勤勞ノ美名ヲ
享ケ因テ以テ二國ノ貧富盛衰ヲ判別セシヲ視ル可シ
又懶怠ノ民ノ甚タ鄭重尊大ナルハ全ク其身親ヲ勤
勞ニ從事セスシテ唯勤勞スル人ノ主人タリト思惟

スルニ外ナラス

試ニ眼光ヲ諸國ノ人民ニ放テ必ス尊大不遜ノ氣質
ト懶怠放逸ノ弊風ト互ニ並馳シテ相離レサルアル
ヲ看出セン

アキムノ人民ハ傲慢ノ質懶怠ノ風極メテ甚タシ聞
ク一升米ヲ百歩ノ近キニ運フモ親ラ之ヲ提携スル
ヲ耻チ奴隸ヲ蓄ハサルモノハ之カ爲メニ特ニ一人
ヲ雇使スルニ至レリト

又人ニソノ親ヲ勞作セサルヲ知ラシメンカ爲メ指
爪ヲ剪ラスシテソノ生長ニ任スル邦土アリ（近今日
支那人
ニ往々之
ルヲ見ル）

其初ノ傲慢ノ氣アルカ爲メニ此等ノ陋規弊習ヲ設立シ而メ復タ此傲慢ノ氣ニ因テ之ヲ維持シテ墮墜セシメサルナリ然レモ人民ノ性情ハソノ之ニ混合スルモノ、多少ニ從テ各異ノ果實ヲ結フモノナレハ亦傲慢ノ氣ニ好大貪名ノ性情ヲ兼帶セルノ應效

ヲ得ル即チ羅馬人ノ氣象ト爲リ今日ニ至ル迄尚ホ宇内ニ其威名ヲ貽スカ如キモノアリ

第十四 西班牙人支那人ノ性質ヲ論ス

各國人民ノ性質ニハ善惡良否ノ齊シカラサルアリ苟モ善惡交混合シテ其宜キヲ得ル片ハ曾テ期セサル處ノ大利ヲ生スルモ一タヒ其宜シキヲ失スル時ハ其害ヲ招ク亦實ニ言フ可ラサル處ノモノアリ西班牙人ノ古ヨリ正直忠實ヲ以テ聞ルヤ歎スチンノ書ニモソノ他人ノ寄托ヲ受ケ忠誠ヲ渝ラサルヲ稱賛シテ寧ロ其性命ヲ失フモ敢テ他人ノ秘密ヲ洩サ、ルノ美質アリト云ヘリ今日ニ至テモ此美

質依然トシテ相存スルカ故ニ諸國ノ客商彼地ニ貿易スルモノハ皆ナ其財本ヲ舉ケテ之ヲ西人ニ托スルモ曾テ一人ノ事後ニ之ヲ悔ムル者アルヲ見サルナリ、夫レ然リ、然ルニ此美質ニ懈怠ノ性ヲ雜ユルニ及ンテ、最モ其國民ノ爲メニ大害タル果實ヲ結成シ、終ニ一國ノ貿易ヲ舉テ外國人ノ壟斷ニ歸セシメ、恬然之レヲ憂ヘサルニ至レリ

支那人ノ性質ハ全ク西班牙人ニ相反セル元素ヨリ混合スルモノト謂フモ可ナリ、何トナレハ支那人ハ其生計ノ恃ミ難キヲ以テ巧黠性ヲ爲シ、勤勞人ニ勝レ、且其圖利ノ念、銳利ニ過キルカ故ニ彼國ニ通商ス

ル人民ハ絶テ信任ヲ支那人ニ置クヲ能ハサレハナリ而シテ支那人ノ獨リ日本ノ貿易ヲ占得スルモ全ク此不實ノ惡質アルニ由ルモノニシテ我カ歐土ノ商人ノ如キハ其國ノ北ニ對セル海岸ヨリ渡航互市ヲ營ムヲ甚タ難キニアラサルモ復タ一人ノ敢テ之ヲ企ツルモノ無シ

第十一回 餘論

予ノ此論ヲ立ルヤ固ヨリ善惡ノ全シカラサル當ニ雲泥ノミナラサルノ距離ヲ減縮スルノ意見ニ出テシニ非ス、斯ノ如キハ神明ニ誓テ敢テセサル所ナリ而シテ予カ論旨ノ在ル所ハ唯讀者ニ政事上ノ不善

ハ悉ク道義上ノ不善トナルニアラス復タ道義上ノ不善ハ皆テ政事上ノ不善トナルニアラサルノ理由ヲ通曉セシメ、制法者ニ一國人民ノ氣象ニ乖戾セル法律ヲ制定セサランコトヲ希望スルニ在ルノミ

第十二回 專制國ノ風俗慣習ヲ論ス

專制國ニ於テ顛覆ノ禍ヲ招クノ迅速ナルハ未タ風俗慣習ヲ變改スルノ一事ニ如クモノアラサルナリ故ニ絶テ之カ變改ヲ圖ラサルヲ以テ此政體ノ要訣ト爲サ、ル可ラス是レ專制國ニ在テハ風俗慣習ノ除キテ他ニ更ニ法律ノ名稱ヲ下ス可キモノヲ見ル可ラサルヲ以テ一タヒ其風俗慣習ヲ變改スル片ハ

忽チ百事瓦解ノ勢ヲ爲ス

一國人民ノ氣質ニ胚胎スルヲ風俗ト云ヒ特各ノ制度ニ成ルヲ法律ト云フ法律ハ人爲ノ制定ニ出テ風俗ハ自然ノ浸染ヨリ生スルモノナリ故ニ國民ノ氣質ヲ變革スルノ人爲ノ制度ヲ變革スルヨリモ一層危險ノ事業タルハ固ヨリ言フ俟タサル處ナリ

概スルニ專權ノ政盛ニ行ハレ上ニ居ルモノハ之ニ賴テ以テ下民ヲ壓制シ、下ニ在ルモノハ之カ爲メニ其暴虐ニ苦シムノ邦土ニ在テハ上下交自由ヲ享ケ得ル所ノ人民ニ比スレハ其交際自ラ疎遠ニシテ互相親昵セス從テ其習俗ヲ革ノ其行儀ヲ變スルモ亦

タ甚タ稀罕ニシテ唯タ舊俗故例ニ因循シ之ヲ以テ
殆ト法律ノ作用ヲ爲サシム故ニ專制政ノ君相ハ餘
國ニ於ケルヨリモ人民ノ風俗ヲ固守スルヲ更ニ恪
謹渝ラサルヲ緊要ナリトス
專制國ニ於テハ婦女ヲ幽閉シテ社會ノ事ニ關與セ
シノサルヲ通常トスルモ自餘ノ邦土ニ在テハ人ニ
交リ物ニ接セサルヲ得サルカ故ニ自ラ己ヲ樂シマ
シムルノ道ヲ求メ男子モ亦之ヲ怡悦セシムルヲ
希望スルヨリ竟ニ自他ノ風俗ヲ變シ固有ノ元質ヲ消
失シ風儀日ニ新タニシテ再ヒ男女天然ノ稟姿ヲ見
サルニ至ルモノナリ

第十三回 支那人ノ行儀ヲ論ス

絶テ一國ノ慣習ヲ變ス可ラサルハ未タ支那ヨリ甚
シキモノアラサルナリ何トナレハ支那ニ於テハ嚴
ニ男女ノ別ヲ立ルノミナラス特ニ學校ヲ設ケテ其
舊慣古習ヲ學ハシムル更ニ道義ノ教ヲ授クルニ異
ラサレハ一タヒ其人ニ接シ其言ヲ聞クヤ忽チ其君
子タリ其小人タルヲ知ルニ足り斯ノ若ク童幼ノ時
ヨリ先哲ノ嘉訓ト嚴師ノ教導ニ由テ外ハ洒掃應對
ノ規矩ヨリ内ハ道義心術ノ微妙ニ至ルマテ國人ノ
身心ニ浸染スルヲ以テ之ヲ改革セント欲スルモ決
シテ得ヘカラサルナリ

第十四回 國風民俗ヲ豹變セシムル方策ヲ

論ス

法律ハ制法者特各ノ制度ニシテ風俗慣習ハ國民一般ノ制度タルヲ業已ニ論スル處ノ如クナレハ單ニ法律ノ作用ニ賴リテ之ヲ變易セント欲スルハ必ス暴政ノ主角ヲ露スルヲ免レサル可シ故ニ假令時勢事情ノ國風民俗ヲ變易セサルヲ得サルアルモ法律ヲ以テ之ヲ變易スルヲ無ク必ス預シメ他ノ風俗慣習ヲ採リ來リ之ニ因テ以テ革新ノ効ヲ奏ス可キナリ

其理然リ然ルヲ以テ人君大ニ其國ヲ豹變セント欲

セハ須ラク法律ノ作用ニ仗リテ以テ法律ノ制定セシ處ノモノヲ釐正シ風俗ニ賴リテ以テ風俗ノ然ラシムル處ノモノヲ變化ス可シ若シ然ラスシテ風俗ニ賴リテ變革ス可キモノヲモ法律ヲ以テ變革スルカ如キハ之ヲ政術ノ至拙ナルモノト謂ハサルヲ得ス

魯西亞人ヲシテ必ス其髻ヲ剃シ去リ其袍ヲ短クセシムル法律ト彼ノ伯德帝第一世カ人民ノ長衫ヲ着テ城門ニ入ル者ヲ捕ヘテ其長ヲ截チテ膝ニ至ラシメタル命令トハ即チ前ニ論セル暴政ノ一例タリ抑モ刑罰ハ用キテ以テ罪犯ヲ防クソ治具ニシテ風俗

ヲ移スル方策ニアラサルナリ故ニ刑罰ヲ以テ風俗
ヲ移スハ當ニ其功ヲ奏セサルノミナラス必ス其害
ヲ招クモノナリ曰ク然ラハ則チ何ニ由テ之ヲ得ル
曰ク在上者率先シテ人民ニ模範ヲ明示スルニ在ル
ノミ

魯人ノ舊弊ヲ蟬脱セルノ容易ニシテ且迅速ナリシ
ニ據テ之ヲ見レハ其人民ハ敢テ帝力常ニ人面獸心
ノ稱ヲ下セシカ如ク冥頑不靈ナリシニ在ラサルヲ
信ス可シ然ルニ帝ハ寛和ナル方策ヲ用ウルモ以テ
豹變ノ效ヲ奏ス可キ理ヲ曉ラスシテ終ニ暴力ニ仗
テ改革ヲ爲セシヲ見レハ帝ノ如キハ人民ヲ蔑視ス

ルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス

帝ハ其躬ノ實驗セル所ニ就テモ亦タ以テ豹變ノ效
ヲ奏スルノ容易ナルヲ知ルヘキナリ何ヲ以テ爾カ
云ノ曰ク帝ハ從來深宮ニ鎖シ奴隸ヲ以テ遇セラレ
タル婦女ヲ解放シ之ヲ朝廷ノ典禮ニ參與セシメ、又
之ニ綾羅ノ衣裳ヲ賜フテ日耳曼様ノ粧束ヲ爲サシ
メタルヨリ其志趣ニ投シ其性情ヲ悦ハシメ、忽チ野
蠻ノ陋俗ヲ脱シテ文雅ノ美風ニ變シ轉々以テ男子
ノ風俗ヲ改良スルノ方便トナリシヲ目撃セシニ非
スヤ

抑モ此變革ノ斯ク容易ニ其效用アリシハ蓋シ魯國

當時ノ風俗ハ全ク風土固有ノモノニ非スシテ畢竟
曩時蒙古人ノ羈絡ニ屈服シ且ツ異邦人ノ雜居セル
ニ因テ漸ク慣習ト成リシモノナレハ帝ハ歐土ノ風
俗ヲ取り來リテ之ヲ歐人ニ施シタルニ過キス宜ナ
カナ咄嗟ノ間ニ此豹變ノ美ヲ致セシヤ亦理ノ當サ
ニ然ルヘキナリ夫レ諸ノ勢力ノ中ニテ極メテ猛烈
ナルハ即チ風土ノ勢力ニシテ固ヨリ他ノ敢テ之ニ
抗抵ス可キモノアラサレハ今之ヲ變革スルニ帝ニ
ミテ能ク他國ノ美風良俗ヲ採用シタランニハ人民
ノ靡然トシテ之ニ則リ倣ハサルハ無カルヘキナリ
然ルニ帝ノ如ク法律ヲ以テ風俗ヲ變革スルノ治具

ト爲セシハ徒ニ壓制ノ物議ヲ招クニ足ルノミ
概スルニ人民ハ其風俗ヲ固執スルノ性情アルヲ免
レサルモノナレハ暴力ニ頼リテ其固執スル處ノモ
ノヲ奪取スルハ何ソ其享用スル所ノ康福ヲ奪取ス
ルニ異ナランヤ必ス人民ヲシテ自ラ變易セシム可
シ慎テ法律ニ依リテ變改ヲ行フ可ラス
夫レ事情已ム可ラサルニ出サレ刑罰ハ暴虐ノ名ヲ
受クルヲ免レサルモノニシテ法律ハ單ニ權威ノ
作用ヲ示スカ爲メノモノニ非サルナリ故ニ以テ已
ム可ク以テ已ム可ラサルカ如キ事情ハ法律ノ得テ
預ル可キ所ニ非サルナリ

第十五回 家政ノ國政ノ感動スル論

婦女ノ風俗ヲ變易セルニ因テ大ニ其影響ヲ魯國ノ政體ニ及ホセシハ更ニ疑フヘキニアラス抑モ國政ハ家政ニ從テ自然ニ變易スルモノナルカ故ニ婦女ヲ奴隸視スルニ因テ專制ノ君ヲ生シ之ニ自由ヲ受用セシムルニ因テ立君政ノ精神ヲ振興セシモノナリ

第十六回 制法者カ人類ヲ治ムル所ノ主義

ヲ混淆セシ所以ヲ論ス

國風民俗ハ制法者ノ敢テ制定シ能ハサル所ノ性習ニシテ縱令其力能ク之レヲ制定シ得ルモ亦其欲セ

サル所ナリ

法律ハ臣屬（國士タルノ權利ノ行為ヲ治メ風俗ハ義發ニ就テ云フ）私人ノ行為ヲ治ムルモノナリ之ヲ法律風俗ノ分ル

、所ノ畛域ナリトス而メ復タ風俗慣習ニ不同ノ所アリ即チ風俗ハ專ラ人ノ内部ヲ治メ慣習ハ專ラ其外部ヲ治ム

制法者時トシテ此畛域ヲ混全スルヲアリ（摩西ハ法律宗教ニ法）

初ノ爲メニ企一ノ條例ヲ編定セリ（國即チ斯巴爾）

達ノリクルグスカ法律風俗慣習三者ノ爲メニ全一

ノ條例ヲ制定シ支那ノ制法者モ亦其一轍ニ出テンカ如キ是レナリ

斯已爾達及ヒ支那ノ制法者カ此二者ノ畛域ヲ混全
セシモ敢テ其理由ナキニ非スシテ彼國ノ風俗ハ法
律ノ作用ヲ爲シ其慣習ハ風俗ノ効果アリシヲ以テ
ナリ

支那制法者ノ視テ以テ大綱トナセシハ即チ其臣民
ノ平和安寧ヲ希圖セルニ外ナラサルヲ以テ極メテ
其禮文ヲ繁縟ニシ各人ヲシテ造次顛沛ニモ社會ニ
依賴スルノ念ヲ忘失セシメス又全國ノ人々竭スヘ
キ義務ヲ怠ラシメスシテ互ニ相敬シ相尊ハシメタ
リ
然ルヲ以テ支那ニ於テハ野人僞父ト雖モ互ニ相交

ルニ禮文ヲ以テシソノ揖讓ノ肅然タルハ更ニ貴紳
爵士ノ儀容ニ異ナルヲ無シ實ニ性情ヲ和シ、癡倫ヲ
叙スルノミナラス又一切性僻ノ不善ヨリ生スル所
ノ弊害ヲ醫治スヘキ藥石タリ其禮文ヲ廢シ恭敬ノ
儀ヲ弛ムルカ如キハ何ソ意馬ノ韁ヲ解キテ其狂奔
縱馳ニ任スルト異ナル處アラシヤ

此一點ニ於テ揖讓唯々謹ムニ出タル禮文支那人ハ、
性情ニ發スル處ノ溫雅佛ヨリモ、更ニ貴重スヘキモ
ノタリ蓋シ性情ニ發スル所ノ溫雅ハ他人ノ惡德ニ
諂從スルノ弊アルヲ免カレスト雖モ揖讓是レ慎ム
ニ出タル禮文ハ唯人ノ己ノ不善ヲ知ランヲ畏レ、

勢メテ邊幅ヲ脩飾スルカ故ニ敗行失德ノ自他ニ傳
染スルヲ防制スルニ足ル可シ

リクルクスノ法制ハ嚴峻ヲ極メ專ラ勇武ニ因テ人
民ノ氣風ヲ助養セント欲セシカ故ニ禮貌儀容ヲ用
キテ之カ治具ト爲サ、リキ是レ嚴肅ナル訓令ヲ服
膺シ其俗淳樸其風勇武ナル人民ハ懿德ヲ以テ能ク
禮儀ノ缺陷ヲ補足スヘキヲ以テナリ

第十七回 支那政府特有ノ性質ヲ論ス

支那ノ制法者ハ更ニ歩ヲ進メテ宗教、法律、風俗、慣習
ヲモ一渾シ之ヲ以テ道德ノ基礎ト爲シ此四綱ニ關
涉スル所ノ教訓ヲ禮文ト稱シ之ヲ以テ經國ノ大道

ト爲シ少壯之ノ學習シ、終身之ヲ履行シ、學士之ヲ教
ヘ官長之ヲ勸メ終ニ人生ノ云爲行止一ニ禮文ノ範
圍ヲ脱スルモノナク一國翕然トシテ靡從シ、一民ノ
之ニ違フモノナカラシムルヲ以テ天下ノ安泰ト看
倣シタリ

斯ク百千ノ禮文ヲ支那人ノ肺肝ニ鏤刻シテ毫モ煩
難ヲ覺ヘサル所以ノモノハ、ソノ國字極メテ通シ易
カラサルヨリ、螢雪ニ勤苦スル年又年ヲ經サレハ禮
典ヲ讀ミ其義ヲ解シ能ハサルト士人ノ志ヲ砥礪シ
ムルモ之禮文ノ教訓ハ唯平生實踐ス可キノ規矩ニ
シテ固ヨリ無形ノ學術ニ非サルカ故ニ丹田ニ之ヲ

培植スルモ亦從テ直接ノ功用ヲ得ル多キトニ由テナリ

然ルニ國君ノ民ヲ治ムル禮文ニ依ラス專ラ刑罰ノ威ヲ藉リテ政ヲ爲セシモノ尠ナカラス、斯ノ如キハ道義ヲ治ムルノ力ナキ刑威ヲ用キテ以テ道義ニ淵源スル處ノ性習ヲ矯正センイヲ欲セルモノト謂フ可キノミ抑モ刑罰ノ用ハ恰モ臣民ノ緣ヲ其社會ヨリ棄絶セシムルモノニシテ一夕ヒ社會ニ棄絶サル、其ハ忽チ風俗ノ懿美ヲ失シ法律ノ成典ヲ破ラサルハ無カル可シ夫レ億兆ノ民已ニ滔々トシテ道德ヲ棄絶スルニ尚ホ刑罰ノ力ニ賴リテ其頽勢ヲ挽回

シ得可キヤ、ソノ能ハサルハ必然ナリ但シ全國ニ蔓延セル惡弊ヲ一掃シ其痕跡ヲ絶ツカ爲メニ、時トシテ刑罰ヲ用ウル有ルモ敢テ正義ヲ失フヲ無シト雖モ決シテ之ニ依リテ其淵源ヲ塞ク可キニアラサレハ若シ支那ノ政府其主義ヲ錯認シテ人民ノ道德一タヒ頽壞スルニ至ルハ政綱其紐ヲ解キ天下土崩ノ勢ヲ爲スハ數ノ最モ睹易キ所ナリ

第十八回 前論ノ效果

支那ノ形勢然ルヲ以テ假令他國ノ爲メニ征服サル、ニアリト雖モ其法律ハ依然トシテ相存シ曾テ滅絶ニ就クニアラサリキ是レ其慣習、風俗、法律、宗教ヲ

併セテ一區域ニ包容スルカ故ニ之ヲ變易スルハ一時ノ能クスル所ニアラス必ス之ヲ征服セシ者ト征服サレタル者トノ間ニ於テ徐々トシテ之ニ推移セサルヲ得サレハナリ、又之ヲ實驗ニ徵スルニ支那ニ於テハ征服セル者ハ常ニ征服サレタル者ノ爲メニ變易セラレ、曾テ征服サレタル者ノ、征服セル者ニ遷移セシヲ見ス是レ蓋シ古來支那ヲ征服シタル國民ハ概シテ文物制度ノ觀ルヘキモノナク固有ノ宗教、法律、習俗ヲササルカ故ニ夷ヲ以テ華ヲ學フハ易ク華ヲ以テ夷ニ變スルハ甚タ難キノ理ニ因テ然ルナル可シ

然レモ亦之ニ因テ一ノ不幸ナル果實ヲ結ヒ成スヲ免レス何ソヤ支那ニ我カ宗教ノ諸行儀(即チ終身童女タルノ願誓ヲ立ル、寺院ニ婦女ノ集會スル、其牧師ニ親交セサル可ラサル、洗禮餐禮ニ參與スル、牧師ノ耳ニ罪惡ヲ懺悔スル、オンクシヨシヲ行フ、一夫一婦ノ制ヲ採用スルハ乃チ以テ其國ノ風俗慣習ヲ顛覆シ一撃ノ下忽チ其法律宗教ヲモ破ルニ至ル可キカ故ニ殆ト念慮ヲ基督教ノ傳宣ニ絶タサルヲ得サル是ナリ

基督教ハ樂善ノ會社アルニ依リ公同ノ禮拜アルニ依リ男女齊シク聖禮ニ參與スルニ依リテ其行儀始

終男女ノ交際ヲ親密ナラシムルニ在リ然ルニ之ニ
及シテ支那ノ禮文ハ嚴ニ男女ノ別ヲ立ルニ在リ
斯ノ如ク男女ノ別ヲ嚴ニスルハ專制政ノ精神ニ賴
ルニアラサレハ能ハス以テ立憲政ノ基督教ノ宗諦
ニ適當スルヲ知ルニ足ルヘシ

第十九回 支那人ノ宗教、法律、風俗、慣習ヲ混

淆シタル理由

支那制法者ノ因テ以テ政府ノ大綱トナスハ即チ天
下ノ泰平無事ナルニ外ナラス而シテ泰平無事ノ治
效ヲ奏スルニハ人民ノ隸從心ヲ堅固ニスルニ若ク
無シ故ニ治者ハ常ニ人民ヲ薰陶シテ孝順ノ心ヲ起

サシムルヲ以テ其當ニ竭クス可キノ職分ト爲セハ
經綸ノ主義一モ茲ニ歸向セサルハ無ク政府ノ全力
ヲ盡シテ三百ノ禮儀ヲ制定シ因テ以テ父母ノ生
養ヒ死ヲ送ルニ從事セシメ其己ニ死セル者ニ事
ルノ禮儀アルカ爲メニ自ラ生者ヲ養フニ恭敬ヲ懈
ラサルコトヲ得タリ而シテ其葬禮ハ頗ル宗教ニ類シ生
前ノ孝養ハ稍、法律習俗ニ似テ規矩禮節極メテ繁縟
ナリトス

父母ニ孝順ナル風儀ヲ推シテ其地位ニ立ツ處ノ耆
老、師傅、官長、君主ニ及シ以テ恭敬ノ禮ヲ竭シ以テ順
從ノ義ヲ發メ而シテ父母ハ慈愛ヲ以テ子女ノ孝順

ニ酬ヒ耆老、官長、君主モ亦幼少、臣屬ニ對シテ各々履行ス可キノ義務アリ、尊卑老幼相交ルニ各々其禮アリ、此禮儀即チ一國人民ノ氣風トナレリ
 今支那帝國ノ法憲ノ因テ基ク所ノ事由ヲ説明セン
 一、局外ヨリ觀ルルハ極メテ輕易ニシテ毫モ介意スルニ足ラサルカ如シト雖モ亦甚タ重要ナル關係ノ存スル所アリ、蓋シ支那帝國ハ家族政治ノ模型ニ陶冶セラル、カ故ニ若シ一タヒ父母ノ權ヲ殺ス或ハ毫モ之ニ竭ス可キノ敬禮ヲ懈ラシムルハ其人民ハ忽チ父母ト視ル處ノ官長ニ順從スル恭敬ヲ失シ、官長モ亦タ赤子ト思フ可キノ人民ヲ眷愛スル所ノ仁

惠ヲ施サス、一タヒ父子ノ禮衰ルカ爲ニ遂ニ君臣ノ情誼ヲ繫ク處ノ彝倫ヲ斷絶セサルヲ得ス故ニ其風俗ノ一部ヲ破ルハ則チ以テ其國憲ノ全體ヲ顛覆スルノ理ニ當ルト謂フモ決シテ不可ナル所ナシ、禮典ニ婦ノ舅姑ニ事フルニ每朝雞鳴キテ始テ起キ、盥漱シテ其安ヲ問フカ如キ數多ノ職分アルモ固ヨリ閨門ノ小事ニ過キササルヲ以テ敢テ制法者ノ心思ヲ煩スニ足ラサルカ如シト雖モ然レモ此身外ノ行儀アルニ依リ、人民ヲシテ念々ソノ服膺スヘキ義務ヲ感覺シ之ニ因テ一國ヲ經綸スル處ノ氣風ヲ胚胎スルヲ思想シ以テ其循規蹈矩ノ万モ己ムヘカラサル所

以テ發明セシムルモノアリ

第二十回 支那人ニ意外ノ奇癖アルヲ論

ス

禮儀ヲ以テ云爲行止ノ準繩トナセル支那人ニシテ
宇内無比ノ詐客タルハ亦咄々怪事ト謂ハサルヲ得
サルナリ何ニ由テ然ルヤ曰ク專ラ買賣ノ經營上ニ
就テ之ヲ見ル可シ抑モ買賣ハ自然ニ正直ノ道ニ趨
クヘキ性質ノモノタリト雖モ支那人ヲシテ之ニ由
ラシムルハ決シテ能フ可ラサル事ニシテ支那人ノ
如キハ常ニ三様ノ秤量ヲ備ヘ物ヲ買フニ其重キヲ
用牛物ヲ賣ルニ其輕キヲ用牛而ノ戒心アリ欺ク可

ラサル人ニ其眞量ヲ用ウルカ故ニ外客遠商ノ支那
人ヨリ物品ヲ購ヒ求ムルニ方テハ必ス自己ノ秤量
ヲ携帶セサル可ラストス其性習ノ斯ク相反セル所
以ヲ説明スルハ敢テ難事アラサルナリ

蓋シ支那制法者ノ認メテ以テ治圖ノ極點トスル所
ノモノハ唯タ人民馴良ニシテ安恬事ヲ好マス而モ
其工業ニ勤勞スルノ二事ニ在リ是レ其土質季候ニ
制セラレテ生計ノ道甚タ危殆ナルニヨリ工業ニ勤
勞スルノ外更ニ衣食ヲ得ヘキ方便ヲ得サルヲ以テ
ナリ

一人ノ上旨ヲ奉セサル無ク一人ノ生業ニ就カサル

無キ之ヲ彼國ノ祥瑞ト謂フ可シ然ルニ其人民專ラ
利得ニ熱心シテ貪饒飽カサルニ至テハ全ク止ムヘ
カラサルノ事實或ハ季候ノ然ラシムニ因由スルト
且絶ヘテ法律ノ之ヲ檢束スル無キトニ出テサルハ
無シ何トナレハ支那ノ法律ニ據レハ凡ソ強暴ニ涉
レル行爲ハ一トシテ之ヲ禁制セサルハナシト雖モ
夫ノ術數或ハ勞力ニ因テ物ヲ得ルハ其事ノ正否ヲ
問ハス概シテ之ヲ許容スルカ故ニ竟ニ其心術ヲ我
カ歐人ニ對比ス可ラサルノ位地ニ至レルナリ實ニ
支那ニ於テハ各人唯タ一己ノ利益ニミ注意セサ
ル可ラス然ルヲ以テ外客ノソノ一己ノ利益ニ注意

シテ詐欺ノ術中ニ陷キルヲ防禦スルハ猶ホ應サニ
詐欺ノ其一己ノ利益ヲ圖リテ以テ其術數ヲ運ラサ
ンコトヲ企圖ルニ異ラサルヲ要ス嗚呼往古ノ斯巴爾
達ハ竊盜ヲ公許シ今日ノ支那ハ欺詐ヲ咎メス數千
年ノ下其行爲遙々相對シテ符節ヲ合スルカ若シ亦
異ナラスヤ

第二十一回 法律ノ國風民俗ニ關涉セサル

可ラサル所以ヲ論ス

同ト異質別種ナル法律風俗慣習ノ三者ヲ混同セル
ハ唯ニ特格ナル國制ニ於テノミ然ルノ得ヘシ然レ
氏此異質ナル三者ノ中ニ復彼此關涉スル所アリテ

互ニ相離ル可カラサル所ノモノアリ知ラスンハアル可ラス

或人ソローロンニ問フテ曰ク「ソノ雅典人ノ爲メニ制定セシ所ノ法律ハ至善絶美ノモノナリシヤ」答ヘテ「予ハ彼ノ國民ノ得テ堪フルニ善美ナルモノヲ制定セシニ過キスト是レ制法者ノ深ク咀嚼スヘキ警語ナリ又全智^{上帝ノ智}ノ猶太人ニ諭セル言ニ曰ク「予カ汝ニ與フ所ノ訓典ハ敢テ至善ノモノニ非サルナリト茲ニ至善ニ非スト謂フハ則チ猶太人ニ勝レタル人民ノ爲メニハ不善ニ屬スルモノニシテ當時ノ猶太人ノ爲メニハ相當ナリト云フノ意義ナリ此一

句以テ摩西ノ法典中ニ散在スル無數ノ疑團ヲ氷解スルニ足レリ

第二十二回 同上

人民ノ風俗方正淳良ナル片ハ其法律モ亦從テ簡易ニシテ天然ノ理ニ因由スルモノナリ、プラト^ンハ寧ラ教義ニ依リテ國民ヲ治メシラダマトス人ノ風俗ヲ讚美シテ「訟獄ヲ聽クニ唯一片ノ誓詞ヲ要スルノミニテ速カニ曲直ヲ判決セリト謂ヘリ、然レモ又其言ニ教義ヲ信セサル人民ニ至テハ法官証人ノ如キ全ク事外ニ在ル者ノ外、決シテ誓詞ヲ立テシム可カラスト説ケリ

第二十三回 法律ノ風俗ニ淵源スル所以ヲ
論ス

曾テ羅馬人ノ風俗淳良ナリシ時ニガテ一ノ公財ヲ私用セル條例ノ設立ヲ見ルヲナシ其後民情漸ク澆漓ニ趨キ間々此罪ヲ犯ス者有ルニ及テモ特リソノ私用セル額數ヲ償還セシムルヲ以テ無二ノ汚辱ト看做スニ過キサリキ(シ、ピオノ彈狀即チ其証左タリ)

第二十四回 同上

後見人ノ權利ヲ其母ニ付與スルノ法律ハ最モ孤兒ノ身ヲ保存スルニ注意セルモノニシテ之ヲ其近親

ニ付與スルノ法律ハ其財産ヲ保存センカ爲メ設立スルモノナリ、故ニ人民ノ風俗漸ク敗壞スルニ迫テハ之ヲ其母ニ付與スルヲ最モ良シトスルハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ而モ法律能ク人民ノ風俗ヲ信任シ得可キ時ニ在テハ之ヲ其母ニ付與シ或ハ近親ニ付與シ或ハ二人ニ共有セシムルモ俱ニ其害無キモノトス

今日ニ在テ羅馬ノ法律ヲ回顧スレハ其趣旨ノ全ク前論ニ符合セルモノアルヲ看出ス可シ夫ノ十二銅表ノ律典ヲ制定セシハ乃チ羅馬人ノ風俗最モ純良ナル時ニ在リテ、孤兒ノ後見職ヲ以テ之ヲ其近親ヨ

リ擔任スヘキモノトナセリ、是レ近親ハ若シ孤兒ノ
死亡ニ逢フガハ其財産ヲ紹續スルノ利益アルヲ以
テ兼テ之ヲ保護スルノ煩勞ヲ辭ス可ラストノ趣意
ニシテ絶ヘテ孤兒ノ身ヲ舉テ之ヲ其死亡ニ因テ利
益ヲ得ヘキ人ノ掌中ニ托スルノ危險アリト懸念セ
サリシヲ以テナリ、然ルニ風俗敗壞ニ屬シ人心澆漓
ニ傾クニ及テ制法者ノ趣意モ復タ昔時ニ比スレハ
煩簡ノ別ヲ生セサル能ハス即チカイユス、然スチニ
ヤンノ法制中ニアル幼屬ノ替身者原語「グビラリ」
能スレハ其財産ヲ紹續スヘキモノシテノ條例ニ曰ク
若シ遺囑ヲ立ル人ニ於テ、替身者ノ惡計ニ因テ孤兒

ノ不利ヲ圖ルヘキ憂慮アル中ハ尋常ノ替身者原語「グビラリ」
續スルガハ欲ヒサル時ニ其相續人ト爲ルヘキモノヲ
設テ其趣ヲ遺書ニ掲載シテ若シ一定ノ期限ヲ經サ
レハ決シテ紹續ノ權ヲ得能ハサシメタリ、是レ皆
ノ國初ノ人民カ知ラサル所ノ預防策トス

第二十五回 同上

羅馬人ハ婚姻ニ先チテ其婦ニ物ヲ贈ルヲ許シ、而
シテ成婚ノ後ニ至テ之ヲ行フヲ許サ、ルノ法律
アリ、此法律ハ固ト風俗ニ淵源セルモノニシテ蓋シ
當時ノ人民ハ質素貞實ノ意見ヨリシテ夫婦ノ契約
ヲ結成スルカ故ニ、未タ婚姻ヲ爲サ、ル間ハ縱令贈

與ヲ許スモ敢テ節儉ノ道ヲ忘レスト雖モ己ニ完婚
ノ後ハ一家ノ政ヲ理シ伉儷ノ樂ニ耽ルカ爲メニ遂
ニ奢侈ニ流レテ財産ヲ揮擢ス可カラサルヲ以テ之
ヲ禁止セシニ由ルモノナリ
カ井シゴット人ノ法律ニ據レハ男子ヨリソノ結婚
セント欲スル處ノ婦女ニ物件ヲ贈ルハ其所有セル
財産ノ十分一ニ過キルヲ許サス又完婚ノ後モ一
年ノ間ハ之ニ贈遺スルヲ禁止セリ此法律モ亦風
俗ニ胚胎セルモノニシテ制法者ノ趣意ハ民俗ノ遂
ニ華奢ニ流レ虚飾ヲ誇ルヲ防制スルニ外ナラス
見ル可シ羅馬人ハ其法律ニ依テ以テ宇内ニ於テ最

モ持久スヘキ勢力(即チ懿德)ヨリ生スル處ノ弊ヲ一
掃シ西班牙人^{ウカシゴット}ハ其法律ニ依テ以テ極メ
テ消散シ易ク且ツ柔軟ナル權力(即チ艶色)<sup>婦人ノ容
色ハ妙齡</sup>
ノ時ニ限リ未タ久シカラニ籠絡サルハノ害ヲ防制
スシテ凋衰ニ傾クニ喻フニ
セシヲ

第二十六回 同上

テオドシユス及ヒワレンチニヤンノ法律ハ離婚ノ
原由ヲ以テ羅馬人ノ古風舊俗ニ歸シ若シ夫其妻ヲ
毆ツキハ自主ノ婦女タルノ名譽ヲ傷フト云フヲ以
テ之ヲ妻ノ其夫ヲ絶ツヘキ原由ノ一款ニ列シタリ
然ルニ其後東洋ノ風俗ヲ採用スルニ及テ法律一變

シテ復タ斯ノ如キ條例アルヲ見ル可ラス、甚タシキ
ハ史傳ニダユスナニヤン帝第二世ノ皇后、其閹官ノ
長タルモノニ懲戒セラル、^一恰モ學校生徒ノ教師
ニ於ケルニ異ラサル^一ヲ記載セリ、當時風俗ノ然ラ
シムルニ非サルヨリハ何ソ陵夷シテ此極ニ到ルヲ
得ンヤ

以上法律ノ風俗ニ追蹤スル所以ナリ茲ヨリ見點ヲ
一轉シテ風俗ノ法律ニ陪從スル所以ヲ考究ス可シ

第二十七回 法律ハ以テ國風民俗ヲ陶冶ス

ルノ原行タル所以ヲ論ス（按此ハ徹頭徹尾英國ノ人民ヲ論題ト爲シ其實況ヲ形容セルモノ）

奴隸ノ境遇ニ沈淪スル人民ノ慣習ハ其慣習ヲ以テ
卑屈無力ノ一部ト爲シ、自由ヲ得タル人民ノ慣習ハ
之ヲ以テ其自主權ノ一部トセリ

自由ヲ得タル人民ト及ヒ其國憲ノ主義トハ詳カニ
之ヲ第十一卷第十六回ニ論シタリ、今茲ニ此自由ニ
因テ生スル所ノ應效ト自由ニ薰陶サルヘキ氣風及
ヒソノ自然ノ果實タル慣習ヲ考究ス可シ

此國民ノ法律習俗ヲ培養スルハ固ト風土ノ力多キ
ニ居テ更ニ論啄ヲ容ル、間隙無シト雖モ而モ亦其
習俗ノ法律ニ對シテ密接ノ關涉アルヲ知ラスンハ

アル可ラス

此國ニハ顯然タル立法、行政ノ二權アリテ國士タル者ハ各其志操ヲ立テ、己カ所欲ニ從テ自主權ヲ逞クスルヲ得ヘシ故ニ士君子ノ行政權ニ熱中スルモノ甚タ僅少ニシテ立法權ニ熱中スルモノ甚タ居多ナリ但シ庶民ニ至テハ概シテ此二權ニ熱中スル智慮ヲ有セサルモノトス

行政權ハ百有司ノ銓選ヲ掌リ、大ニ希望ヲ繫ク可キノ地位ニ居ルノミナラス而モ又他ニ恐懼ス可キアラサルヲ以テ常ニ其恩波ニ浴スルモノ、左祖ヲ得ヘシト雖モ然レモ之ヲ希冀セサル處ノ人民立法權

ニ攻撃サル、一ヲ免レサルモノナリ

此國民ハ諸般ノ情火ヲ抑制セサルニ依リ憎惡嫉妬、及ヒ富貴ヲ求メ、名利ヲ希フノ氣焰甚タ熾盛ナルモ亦タ己ムヲ得サルノ情勢ナリトス蓋シ然ラサルモハ國勢萎靡シテ殆ト病客ノ氣力ナキニ因テ情欲ヲ起サ、ルカ如キ形狀ヲ成スニ至レハナリ

甲乙二黨ノ間ニ憎惡ノ情ヲ生スト雖モ彼此ノ力正ニ匹敵スルカ故ニ常ニ能ク其爭論ヲ持久シテ一決ノ勝敗ニ至ルヲ无シ

斯ノ如キ黨派ハ大抵自主民ヨリ成立スルカ故ニ自由ノ極マル所、遂ニ甲黨ノ勢ヒ強ニ過キルホハ必ス

乙黨ノ衰微ニ傾クヲ免レス、然レ此場合ニ至レハ又
必ス自餘ノ國士起リテ弱者ヲ救援スルヲ恰モ手ヲ
出シテ軀體ノ痛痒ヲ搔カ如キノ形狀ヲナスモノナ
リ
私人ハ各々獨立ノ地位ニ立チ加フルニ專ラ情意ニ
率由スルカ故ニ屢々其黨派ヲ換ヘ、今日マテ己カ同
朋タリシ者ヲ棄テ去リテ新タニ昨日マテ敵手タリ
シ黨派ニ加入スル、其狀恰モ好惡愛憎ノ道アルヲ知
ラサルモノ、如シ

此國ニ於テハ君主ノ地位ニ在リト雖モ敢テ私人ニ
異テル所無ク漫ニ他國ノ治術ヲ學フヲ得ス故ニ

其政權ヲ舉テ最モ意ニ滿タサル處ノ人ニ信任シ、而
ノ寵眷ヲ極ノル人ヲモ之ヲ黜斥セサルヲ得ス是レ
コノ國ノ君主ハ他國ノ君主ニ齊シク簡選ノ權ヲ專
ラニスルヲ能ハス必ス時勢ニ依從セサルヲ得サレ
ハナリ

常ニ受用スル處ノ康福ヲ剝奪サル、ニハ非サルヤ、
其真相ヲ蔽翳セラル、ニ非サルヤ、瞬時モ危懼ノ思
念ノ發作スルヲ止ムルヲ能ハス夫レ一タヒ危懼ノ
思念ヲ懷ク片ハ物影ノ其形ヨリ巨大ナルヲ覺フ可
シ、此國ノ人民ノ如キハ正ニ此景況ニ居テ一時モ其
思慮ノ安堵ヲ得サレハ縱令自由堅固ノ時ニ際シテ

モ尚ホ時常危険ニ臨ムノ思想ヲ懷ケリ
行政權ヲ激攻スル人ト雖モ決シテ其間ニ私利ヲ挾
ム可ラス若シ其人私利ヲ挾ミテ之ヲ攻ムルハ徒
ニ一己ノ安危ヲ知ラサル人民ノ畏懼心ヲ増加スヘ
キノミ但シ人民モ亦タ此畏懼心ノアルニ賴テ後來
危険ニ陷ルノ禍ヲ免カル、ヲ得可シ

然レモ立法官ハ人民ノ信憑ヲ負荷シ殊ニ其智慮モ
亦人民ニ超絶スルヲ以テ其不安ノ心意ヲ鎮撫シテ
常ニ復セシムルヲ亦難キニアラサルナリ

是レ乃チ此國政體ノ往古ノ民主政ニ超駕セシ處ノ
大利ナリ何ソヤ古ノ民主政ニ於テハ人民直接ニ政

權ヲ掌握セシカ故ニ一タヒ政論家ノ唆動スル所ト
爲ル時ハ忽チ沸騰シテ一國ノ大亂ヲ釀成セリ

人民其心ニ畏懼ノ思念ヲ懷クモ而モ更ニ畏ルヘキ
一定ノ目的アラサルハ畢竟囂々嘖々タルニ過キ
サルノミ然レモ之ニ因テ政府ノ活機ヲ刺衝シ人民
ノ方向ヲ一定スルノ良果ヲ結フヲ得ヘシ但シソ
ノ法憲ヲ破ルニ因テ起ル處ノ騷擾ニ至テハ悲憤憂
愁ヨリ發作スルカ故ニ眞ニ恐懼スヘキノ禍亂ヲ招
カサルナシ

果シテ此極ニ到レハ各人一致シテ其法憲ヲ破リタ
ル所ノ政權ヲ攻撃シ、敢テ餘力ヲ遺サ、ルヲ以テ喧

黨ノ聲忽チ靜止シテ却テ沉默ノ形勢ヲ現出ス可シ
一定ノ目的アルニ因リ不安ノ心ヲ懷グニ方テ若シ
外國ノ入寇アルニ逢フカ或ハ一國ノ榮譽繁昌ヲ損
傷ス可キ事變起ルヲアレハ直チニ黨派ノ軋轢ヲ止
メ自他協合シテ齊シク大事ヲ擔當シ一致戮力シテ
行政權ヲ輔助スルニ至ル可シ
然レモ若シ法憲ヲ破ルニ因テ黨派ノ軋轢ヲ生シタ
ル時適外寇ヲ蒙ムルヲアレハ或ハ一國顛覆ノ亂ヲ
致スヲ免レスト雖モ毫モソノ國憲政體ヲ更改スル
ヲ无カル可シ是レ自由ニ發スル處ノ顛覆ハ即チ以
テ其自由ヲ確定スルニ外ナラサルヲ以テナリ

自由ヲ得タル國民ハ必ス其國ヲ救助スル處ノ人ヲ
得ヘキモ奴隸ノ境遇ニ沉淪セル國民ハ一ノ暴主ヲ
除キテ他ノ暴主ヲ得ルニ過キサノミ何ソヤ蓋シ
暴主ノ廢立ヲ行ヒ得ヘキ有力者ハ復タ必ス躬ヲ暴
主タルヘキノ威權ヲ掌握スレハナリ
自由權ヲ享用シ之ヲ維持シテ失墜セシメサルハ全
ク各人其思想ヲ吐露シ其意見ヲ開陳スルモ他ニ之
ヲ制限スルモノ無キニ由レリ故ニ此國ノ人民ハ苟
モ法律ノ禁止スル所ニアラサルヨリハ縱マ、ニ言
論著述ノ自由ヲ享有スヘシ
斯ノ如ク始終沸騰ノ中ニ住ム處ノ人民ハ道理ヲ以

テ之ヲ動カスヲ頗ル難シト雖モ情火ヲ以テ之ヲ誘導スルハ甚タ容易ナルモノナリ、故ニ治者ハ時トシテ人民ヲシテ其實利ニ乖戾スル所ノ事業ニ從ハシムルヲ得可シ

此國民ノ自由ハ即チ現實ノ自由ナルヲ以テ其之ヲ嗜ミ之ヲ好ムヲ毫モ色欲ノ性ニ於ルト異ナル所ナシ然ルヲ以テ苟モ其自由ヲ扞禦スルカ爲メナレハ、人民ノ富財ヲモ奪フヘシ、其安樂ヲモ妨ク可シ、其利益ヲモ損失セシム可シ、又專暴ノ君ト雖モ敢テ其臣民ニ取り能ハサル處ノ厚賦重斂ヲモ負荷セシム可シ

然ルニ他國ニ在リテ此重賦厚斂ヲ人民ニ負荷セシムル時ハ之カ爲メニ民心ノ不平ヲ醸シ其禍ハ却テ稅斂ノ苦難ヨリモ一層著大ナルモノアルモ此國ニ在リテハ人民其己ム可ラサルノ原因ヲ識得シ且其廢止ニ就クモ亦遠キニアラサルノ希望アルニ因テ斯ノ如キ重任ヲ荷フモ曾テ其重量ヲ覺エス之ヲ樂輸シテ怨言無キナリ

此國民ハ自ラ公債ヲ借リテ自ラ之ヲ償還スレハ其國信常ニ確立シテ甚タ堅固ナリ且政府ニ信憑アルト及ヒ其性質ノ然ラシムル所能ク虚富公債ヲ藉リテ以テ實財ノ用ヲ爲サシムヘキカ故ニ往々國力ニ

應セサルノ大事ヲ企圖シ又外敵ヲ防禦スルニ巨費ヲ厭フノ患ナキヲ得タリ

自由權ヲ保護センカ爲メ、自ラ臣民ニ向テ國債ヲ募集スルニ臣民ハ其國一タヒ他國ニ兼弁セラル、時ハソノ信憑ヲモ併セテ失フヘキヲ知ルカ故ニ之ヲ捍禦スルニ新タニ氣力ヲ發シテ毫モ其志衰替セス此國民ハ海中ニ孤立スル一島ナルニ依リ、隔絶ノ地ニ藩屬ヲ設クルハ畢竟國力ヲ削弱スルニ過キサルトヲ識得シ絶テ遠畧ノ大志ヲ起スヲ無シ又其國ノ土壤甚タ肥沃ナルカ故ニ強テ兵力ニ仗テ其國ヲ富スヲ欲セス且又國士ハ各々獨立ノ地位ヲ占メテ

自他相屬セサルニ依リ、一己ノ自由權ヲ貴重スルノ心、迫力ニ他人ノ榮譽ヲ仰望スルノ性情ニ勝レリトス

此國ニ於テハ武人ヲ視テ以テ國家有用ノ職分ト爲スモ時トシテハ危害タルヲ免レス且其功勞ト稱スルモノハ即チ國民ノ共ニ負擔スヘキ義務タルヲ識得スルカ故ニ武備ヲ以テ文事ニ一籌ヲ遜ルモノト爲セリ

此國民ハ自由ト法律トノ作用ヲ恃テ安堵シ、更ニ偏頗ノ政ニ制セラル、ヲ無ク加フルニ國內ニ産スル所ノ貿易ノ物料乏シカラス之ニ人工ヲ施ス片ハ以

高價ヲ博スヘキカ故ニ舉國專商ノ民ト爲リ天賜
貿易ノ秘蘊ヲ竭シテ其利澤ニ沐浴スルヲ得タ
リ
斯ノ如ク其國ハ餘饒ノ物品ニ富ムモ地位北邊ニ偏
スルヲ以テ其風土ノ得テ產セサル處ノ物貨ヲ需要
スルヲモ亦タ甚タ居多ナレハ必ス南方ノ國民ト通
商互市セサル可ラス然レモ其交易ヲ開クニ方テハ
預シメ自他ノ利益タル貿易ヲ營ミ得ヘキ國民ヲ撰
ミテ條約ヲ立テ兩國互ニ其利益ヲ受用セリ
一方ヲ顧ミレハ非常ノ富ヲ有テ一方ヲ視レハ稅歛
ノ過重ナルヲ斯ノ如クナレハ此國ニ於テハ一定ノ

工業ニ從事スルヲ無ク特リ中等ノ家產ニ賴リ以テ
一家ノ生計ヲ營ムハ實ニ容易ニアラサルナリ故ニ
國民ハ或ハ言ヲ游歷ニ託シ或ハ養生ヲ名トシ去テ
糊口裕如ノ地方ニ赴クモノ陸續トシテ斷ヘス、遂ニ
其足跡、奴隸ノ住メル邦土ニマテ遍キニ到ルヲ見ル
可シ

專商國ノ人民ハ各自ニ無數ノ小利害アリテ或ハ人
ヲ損害シ或ハ人ニ損害セラル、亦タ從テ多端ナ
リ故ニ其性質甚タ嫉妬ニシテ他人ノ繁榮ヲ羨ムノ
情ハソノ己ノ利達ヲ歡フ心ヨリモ更ニ一層熱切ナ
ルモノトス

此國民ノ法律ハ自餘ノ見點ニ於テハ更ニ寛和簡易ナリト雖モ貿易及ヒ之ヲ媒妁スル處ノ航海ニ至テハ其規律頗ル嚴厲ニシテ恰モ敵國ト交易ヲ營ムニ異ラサルモノアリ

此國民ハ海外ニ植民地ヲ拓クヲアルモ其趣意全ク貿易ノ路ヲ擴充スルニ在テ敢テ政權ヲ恢張スルニ在ラス

此國人ハ異邦客土ニ己ノ風俗制度ヲ移植スルヲ喜フカ故ニ植民地ニ本國ノ政體ヲ設立セシム、而シテソノ政體ヨリ生スル處ノ繁昌富實ヲモ受用セシメタリ、即チ往々深山鬱林ノ中ニ一大國ヲ建立スル

モ全ク之ニ因由スルモノナリ 按亞米利加ノ植民地ヲ指ス

此國民ハ曩キニ微律ヲ得テ其隣國ヲ討テ之ヲ版圖ニ入シカ又其國勢ノ便利ニシテ至良ノ港中多ク貿易ノ物品ニ富メルヲ視テ忽チ猜忌ノ心ヲ起シ新附ノ國民ニ許スニ固有ノ法律ニ因循スルヲ以テセリ然レ其其實之ヲ兼併シテ全ク内屬ノ郡縣ト爲セハ新附ノ國民ハ一身ノ自由ヲ受用スルアルモ其國土ハ奴隸ノ狀ヲ顯スヲ免レサルナリ 按蘇格蘭ノ英國ニ併取セラレシヲ指ス

新附ノ國民ハ其内政甚タ善美ナリト雖モ一ニ公法英國トヲ以テ束縛セラレ又本國ニ於テ制定スル所

ノ法律ヲ固ト其利益ヲ目的トスルニアラスシテ唯其命令ヲ遵奉セシムルニ在リ

此國民ハ儼然タル一大島ニ據リテ貿易ノ利ヲ專占スレハ從容トシテ海面ニ雄飛スルモ敢テ之ニ覬覦スルモノアラス是レ其外寇ヲ防禦シ自由ヲ保護スルニ他國ニ在テハ力ヲ陸軍ニ盡クシテ大洲ノ戰ニ從事セサルヲ得サルカ故ニ復タ巨費ヲ海軍ニ供給シ能ハサルモ此國ニ於テハ沿海陸兵ヲ用ユル所ナキヲ以テ更ニ城郭堡壘ヲ要セスシテ專ラ海軍ヲ盛大ニシ得レハ遂ニ此國ノ艤艫能ク諸國ニ超駕シテ海上ニ跋扈スル所以ナリ

一タヒ海上ニ雄ヲ稱スルハ帆樯ノ達スル所一トシテ凌虐ヲ逞クシテ手臂ノ功ヲ收メサルノ土地無シ故ニ國民ノ氣質自ラ傲慢ニシテソノ權力ヲ信スルハ恰モ大洋ノ際涯无キニ異ラス

此國民ハ兵力ヲ遠畧ニ用ウルヲ無キヲ以テ假令内政專横ニ流レ或ハ黨派ノ軋轢アリト雖モ之カ爲メニ外國ノ友誼ニ酬ヒ或ハ怨怒ヲ報復スルノ肘ヲ掣セラル、トナシ故ニ隣國ノ内事ニ干預シテ勢威甚タ熾ナリ

故ニ此國ノ行政權ハ國內ニ於テ人民ニ其肘ヲ掣セラレ赫々ノ勢ナシト雖モ外國ニ對シテハ常ニ尊重

ヲ得ルモノトス
此國ノ執政官ハ民會ニ向テ、其施設スル機勢ノ辨解
ヲ與ヘサル可ラス、故ニ若シ能ク此國ヲ將テ歐洲列
邦ノ會盟ノ地ト爲スヲ得タリニハ、更ニ盟約ノ條
款ヲ人民ニ秘ス可ラサルヨリ諸邦ノ執政官モ遂ニ
權謀術數ニノミ循フヲ放念セサルヲ得スシテ自
ラ大ニ信義ヲ宇内ニ暢達スルニ至ラン
果シテ然ルハ執政官ハ其施設ノ當ヲ失セルヨリ
所生ノ效果ニ就テ其責任ヲ免ルヘカラサルカ故ニ
正直ノ道ノミ之レ依循シ敢テ險ヲ冒シテ妄進スル
ノ患ナカル可シ

當初貴族ハ非常ノ權カヲ擁シテ甚タ強梁ナレハ國
君ハ人民ノ分限ヲ上進ヒシムルヲ以テ其權ヲ削弱
スルノ方便ト爲セリ故ニ其治術ノ樞機ハ正ニ貴族
ノ氣焰ヲ挫折スルト人民ヲシテ自己ノ權カヲ知ラ
シムルトノ中間ニ在リテ毫モ過不及ナキヲ要ス
又此國民ノ當初屢壓制ノ政ニ困苦セシヲ見レハ自
由政ハ却テ國君無限ノ政體ニ胚胎スルヲ發明ス可
シ

其宗教ヲ論スルニ此國民ハ思想自由ノ權利ヲ有ツ
ニ依リ、各人一己ノ見識若クハ其想像ヲ認メテ以テ
信仰ノ津筏ト爲スヲ得ヘシ、夫レ外物ノ爲メニ天良

ノ心ヲ束縛セラレサルヲ斯ノ如クナレハ一派ノ人
民ハ漠然トシテ敢テ宗教ノ異同ニ汲々ヲサルヲ
以テ國立ノ宗教アルモ之ヲ奉シテ怨嗟スルヲナク
一派ノ人民ハ極メテ宗教ニ熱中シ各自ノ信仰ヲ確
守シテ毫モ動クヲ無ケレハ私立宗派ノ日ニ月ニ増
殖シテ己マス俱ニ自然ノ勢ト謂ハサル可ラス
此國民ハ苟モ己カ良心ニ信仰セル處ノ宗教ヲ捨テ
テ強ヒテソノ信仰セサル者ヲ奉セサルヲ得サル理
由無ケレハ國民ノ中ニ或ハ初メヨリ宗教無キノ人
アルモ亦如何トモ爲シ難シ是レ蓋シ各人其思想ノ
自由ヲ貴重スルハ固ヨリ其性命財産ニ於ルト選庭

ナキニ因リ、其一ヲ失ヘハ必ス其二ヲモ剝奪セラレ
ヘキ理由アルヲ以テナリ

若シ諸派ノ宗教中外壓ノ力ニ仗テ人心ノ信從ヲ督
促スルモノアランニ吾人ハ事物ノ枝葉ヲ視テ其本
體ノ正否ヲ判斷スルモノナルカ故ニ其信ミサル所
ヲ信スルカ如キハ決シテ自由ノ意思ト胸中ニ並立
ス可ラサルヲ以テ究竟人民ノ怨府タルヲ免レサル
ナリ

峻刑嚴罰ハ自由ノ主義ノ許サル所ナレハ苛酷ノ
法律ヲ以テ國教ヲ信セサル宗徒ヲ治メ能ハスト雖
モ亦敢テ其法律ニ過強ノ弊無シト謂フ可ラサルナ

僧侶ノ權ノ式微ヲ致スヘキ事情陸續トシテ相生ス
ルニ從ツテ國士ノ權ハ益々增長ス可キニ依リ清俗
二者ノ間隔離ノ患ナク僧侶ハ自ラ士民ノ社會ニ加
入シテ俗人ト俱ニ其義務ヲ負擔センヲ欲ス然リ
而シテ僧侶ハ常ニ人民ノ歸依ヲ求ムルニ熱切ナルヲ
以テ益々世塵ヲ謝シテ其道ヲ修メ品行益々謹慎ニ
シテ心術益々清純ナリ

僧侶ハ其力以テ宗教ヲ保護スルニ足ラス又宗教ニ
賴テ以テ其身ヲ保護シ能ハス故ニ夙夜懈ラスシテ
勸化訓導ニ從事シ論說自ラ明確ニシテ往々敬神誨

人ノ大手筆ノ出ルヲ見ルニ至ル

然レモ國家ハ僧侶ノ集會ヲ制止シ其舊例ヲ改良ス
ルヲ許容セス是レ僧侶ニ改良ノ美勲ヲ得セシメン
ヨリハ寧ろ改良ノ事業ヲ闕如ニ付スルニ如カサル
トノ政圖ニシテ之ヲ自由ノ弊ト謂テ可ナリ

此政體ノ柱石タル縉紳華族ノ地位ハ他國ニ於ルヨ
リ一層堅固牢實ナリト雖モ全國此自由ヲ尊尚スル
ヲ以テ巨家名族ト稱セラル、ニハ殊ニ人民ニ近接
セサル可カラス故ニ其爵位ニ區別ヲ立ツルモ其身
分ヲ人民ト混同セリ

執柄ノ任ニ膺ル者ハ日新ノ勢力ヲ得サル可ラサル

ノ地位ニ立ツヲ以テ其心目ノ注射スル所口唯タ利
用ノ一途ニ在リテ敢テ豫樂ヲ助長スルノ事ニ傾斜
セス是レ此國ニ於テ高貴ノ聰明ヲ壅弊シ便佞諂諛
ヲ逞クスル小人ノ甚タ稀レナル所以ナリ
此國ニ於テハ甚タ輕佻ノ才子ヲ愛セス專ラ實材ノ
士ヲ貴重セリ實材トハ富財才能ノ二者ヲ云フ
此國民ノ奢侈ハ虛美ノ文物ニ淵源セスシテ特リ現
實ノ需用ニ淵源セリ故ニ其福分ヲ享用スル亦從
テ堅固安泰ナリ之ヲ要スルニ此國民ハ一物ヲモ造
化ニ請フヲナク唯タ造化ノ賜ヲ處ノモノヲ受用ス
ルノミ

此國ノ富家ハ饒財甚タ夥シト雖モ更ニ浮華ノ豫樂
ヲ嗜マサレハソノ費ス所ハ畢竟其富ノ量ヲ減スル
ニ至ラサルヨリ遂ニ濫用ノ弊ヲ招クヲ免レサルナ
リ概スルニ此國民ハ果斷餘リアリテ雅趣足サルモ
ノト謂フ可シ

此國民ハ一己ノ利益ニ役セラレ營々トシテ片時モ
休息シ能ハサルヲ以テ其身ヲ脩飾スルニ暇アラサ
レハ大抵安閑ヨリ生スル所ノ風儀聲容ニ乏シキモ
ノナリ

羅馬人ノ其儀容ヲ脩飾セシ程度ハ正ニ其威權ヲ天
下ニ擅ニシタル程度ニ齊シト謂フ可シ何ッヤ專制

ノ政ハ安閑ヲ生シ而シテ安閑ハ此溫雅ナル儀容ノ
淵源スル所ナレハナリ

國民中ニ進退周旋ヲ謹シミテ他人ノ怡悦ヲ求ムル
モノ益々多キニ從テ儀容ノ溫雅ナラニテヲ務ムル
益々懇到ナリトス然レモ夫ノ華夷ノ畛域ヲ判別ス
ルハ敢テ儀容ノ溫雅ナルニ在ラスシテ全ク心術ノ
謙恭ナルニ在ル可シ

男子各々政權ノ一部ヲ擔當スルノ邦土ニ在テハ婦
女ノ男子ニ交際スルモノ甚々稀薄ナルカ故ニ其氣
質謙遜ニシテ常ニ事物ニ羞縮スルノ風ヲ生シ此羞
縮ノ性習即チ其美德ト爲レリ之ニ反シテ男子ハ詭

媚ノ術ノ知ラス徒ニ女色ニ耽溺スルモノハ其婦女
却テ十分ノ自由ヲ受用セリ

其法律ハ固ト自他平等ナル私人ノ爲メニ制定シテ
其間ニ輕重ヲ容レサルカ故ニ各人皆チ自ラ君主タ
ルノ思想ヲ懷ケリ實ニ此國ノ人民ニハ同等ノ國土
タル稱呼ヲ下サンヨノハ寧ロ同盟ノ私人ト謂フ
其當ヲ得ルニ如カサルナリ

人民ニ運爲息マサルノ精神ヲ賦シ遠大ナル見識ノ
懷カ使ムルハ固ヨリ風土ノ力ニ依頼スルヲ甚々居
多ナルカ故ニ各人ニ政權ヲ分任シ政治ノ利害ニ關
涉セシムルノ國憲ヲ設立セル邦國ニ在テ偶々人民

相會スルヲアレハ說話必ス國事ニ移リ到ルヲ其常
トナシ甚タシキハ國機ヲ揣摩シテ一生ヲ經過スル
モノ尠ナカラサルニ至ル然ルニ又其機勢ノ性質ト
其人ノ地位トニ就テ傍ヲヨリ觀察ヲ下スキハソノ
看テ國事ト做スモノモ一トシテ人ノ思量ヲ費スニ
足ラサルモノアリ

自由ヲ得タル國民ハ苟モ私人ノ各々議論スル處ア
ルヲ以テ足レリトシ敢テソノ論旨ノ善惡ヲ顧ミル
ヲ要セス是レ其國民ノ得有セル自由ハ乃チ此等議
論ノ果實タル安固ノ他ニアラサルヲ以テナリ
之ニ反シテ專制政ニ於テハ苟モ人民ニ議論アレハ

則チ以テ政府ノ主義ヲ撼動スルニ足ル故ニ其論旨
ノ善惡ニ拘ラス齊シク之ヲ危險ノ事ト目セサレノ
得ス

自由ヲ得タル人民ハ苟モ其意ニ滿タサル處アルハ
則チ己ノ性情ニ率テ乖僻ノ言行ヲ立ルモノ甚タ多
シ殊ニ天稟ノ妙思アルモノハ其筆舌ヲ恃テ憂鬱ノ
情ヲ發洩スルニ至ル是レ此輩ハ單ニ時勢ヲ惡ミ世
人ヲ侮慢スルカ故ニ之ヲ稱シテ福利ヲ増進ス可キ
ノ明世ニ在ラシムルモ自ラ好ミテ薄命ニ墜落スル
ヲ免レサルモノト謂フ可キノミ

臣民ノ地ニ居ルト雖モ他ニ畏ル可キノ國民無ク國

王ノ豪矜ナルモ固ト國民ノ不羈自由ニ淵源シテ然ルニ外ナラサレハ一國ノ臣民皆ナ倨傲ノ氣象ヲ帶ヒタリ

故ニ自由ヲ得タル國民ノ氣象ハ甚タ高慢ニシテ自餘ノ國民ノ氣象ノ如キハ之ヲ虛榮浮大ト謂ハンノミ

然レハ性質倨傲ノ國民ハ常ニ同國ノ人ト相交ルト多キニ居ルヲ以テソノ外國人ト交ルニ方テハ畏羞ノ色アルヲ免レス是レ此國民ノ行動ニ往々倨傲羞縮ノ二者相交リテ殊ニ其笑フヘキヲ見ル所以ナリ此國民ノ氣質ヲ詳悉セント欲セハ宜シクソノ文藻

ニ就テ之ヲ求人可シ其詞林ハ深思遠慮ノ人物ニ乏シカラサルナリ

社會ノ交際ヲ顧ミレハ人類ノ愚痴ヲ譏ルヘキ感覺ヲ起スニ足ルモノ尠ナカラス故ニ棄世絕俗ノ行ハ人類ノ愚痴ヲ詮索スルニ恰好ノ境遇ナリ此國民ノ著述セル詼諧ノ詞藻ハ殊ニ銳烈ニシテ皆ナジエウ

エナール(按有名ノ畫工ニシテ著ルノ精神アルモノホ
レニス畫工ノ名華麗溫ノ風韵アルヲ見ルナシ
雅ヲ以テ鳴ル)

君權无限ノ國ニ在テ史筆ノ其實ヲ紀スルヲ得サルハ之レヲ紀スルノ自由ヲ得サルニ由レリ自由極盛ノ邦ニ於テモ其實ヲ紀スルヲ得サルハ人民ノ

自由其極ニ達スルヲ以テ常ニ政論ノ黨派ヲ生シ、黨
中ノ人ノ其持論ヲ偏執スル恰モ專制國ノ人民ノ其
政府ノ奴隸タルニ異ナラサルモノアレハナリ
此國ノ詩人ハ天然奇勁ノ句調ニ富テ溫柔婉美ノ趣
味ニ蓄シ吾人ミカエル、アングローノ勇筆警語ヲ見
ルモラフ、エルノ雅頌ヲ得能ハサルナリ

萬法精理卷之十九畢

萬法精理卷之二十

何 禮之譯

貿易ノ性質及ヒ其差別ニ關涉スル法律
ヲ論ス

第一回 貿易ノ論

茲ニ論述スル題旨ハ其區域頗ル廣博ニシテ固ヨリ
一小冊子ノ能ク罄ス所ニアラスト雖氏奈何セシ急
流ノ勢ニ漂ヒ去リテ復タ徐々ニ舟ヲ行リ能ハサル
ヲヲ〔按〕審カニ其事ヲ盡サント欲スルモ題目多端ニ
シハテ叙々論シ去ラサルヲ免レストノ比喩ナル
温和ナル風俗ヲ目撃スルハ必ス貿易繁昌ノ區ニシ

テ未タ貿易繁昌ノ區ノ風俗ノ温和ナラサルモノアラサルナリ是ヲ普通ノ大則トス、謂ツ可シ貿易ハ頑風陋習ヲ醫治スル一大藥石ト然ラハ則チ今日風俗ノ駸々乎トシテ上進シ業已ニ昔時野蠻ノ域ニアラサルモ全ク貿易流行スルニ依リテ諸國ノ風俗ヲ參觀シ自他ノ妍醜ヲ比較シ此參觀比較ヨリシテ最大ノ利益ヲ生セシモノナリ然ルニ貿易ノ法律ノソノ人民ノ風俗ヲ破ル所ト全一ノ道理ヲ以テ之ヲ改良スルト謂フモ敢テ不可ナルナキハ彼ノグラトールカ貿易ヲ惡ミタルカ如ク其道義ヲ敗壞セルニ外ナラスト雖モ吾人ハ亦其作用

ニ賴テ以テ能ク野蠻ノ民ヲシテ日ニ月ニ開化ノ域ニ趨カシムルヲ忘ル可ラスシハサルハゴール人ヲ論シテ初メデール人ハ常ニ日耳曼人ニ勝チシト云ハ之ニ劣レリト云人ト貿易シテ風俗敗壞セシ以來ハ之ニ劣レリト云

第二回 貿易ノ精神ヲ論ス

平和ハ貿易自然ノ效果ナリ蓋シ兩國互ニ通商スル時ハ甲ハ乙ニ賴リテ物ヲ買ヒ乙ハ甲ニ依リテ物ヲ賣リ彼此相待テ利益ヲ得ルカ故ニ其協和ニ至ルヤ互ニ已ム可ラサルノ勢ヲ基礎トスレハナリ斯ク貿易ノ精神ハ彼此ノ國民ヲ協和スルノ媒灼タリト雖モ決シテ自他ノ私人ヲ結合スルモノニ非ス

何ソヤ曰ク試ニ其心ヲ貿易ノミニ注射シ營々息マ
サルノ國民和蘭ヲ見ヨ仁義ヲ奇貨トシ道德ヲ餌視
シ縱令人情上盡サ、ルヲ得サル一舉手一投足ノ勞
ト雖モ苟モ片黄隻白ヲ得ルニ非サルヨリハ決シテ
從事セサルニ非スヤ
且貿易ノ精神ハ人心ニ向テ公平ノ至情ヲ發生セシ
メ其一端ニ於テハ盜賊ノ行ニ反對スルモ他ノ一端
ニ於テハ常ニ私利ヲ忘レ公益ヲ謀ルノ道德ニ反對
スルモノナリ
然レモ全ク貿易ヲシテ停止セシムルハ復タ盜賊
ノ社會ト為ルヲ免レス即チアリストトルカ列述セ

ル物ヲ獲ルノ方策ノ一是レナリ但シ社會ノ情態此
極ニ到ルニアリト雖モ敢テ道德全ク失墜スト謂フ
可ラス何ソヤ貿易ヲ營ム邦土ハ人情極メテ輕薄ナ
ルモ掠奪ヲ業トセル蕃民ハ却テ外客ヲ款待シテ其
信誼甚タ懇篤ナレハナリ

タシトスニ據レハ日耳曼人ハ甚タ異邦ノ人ニ交際
スルヲ喜ヒ其待遇極メテ懇信ニシテ識ルト識ラ
サルトヲ問ハス適旅客アルニ會ハハ必ス之ヲ我カ
家ニ邀フノミナラス復タ他人ニ紹介シ同様ノ情誼
ヲ以テ之ヲ款留セシメ若シ門ヲ鎖シテ客ヲ拒ムモ
ノアレハ目シテ神ヲ犯スモノト為セシト雖モソノ

王國ヲ建立スルニ至テハ煩累ヲ厭フテ全ク其事ヲ
停止セリ即チブルゴンヂヤンノ法律ニ因テ之ヲ證
明スレハ其一ハ旅客ニ羅馬人ノ家ヲ教ヘタル蕃民
ハ罰典ニ處ス可シ其一ハ若シ一家ニ旅客ヲ歎留セ
サルヲ得サルヲアレハ隣里ニ分賦シテ其費ヲ償ハ
シム可シト是レナリ

第三回 人民ノ貧窮ヲ論ス

貧窮ニ二類アリ其一ハ政府ノ暴虐ニ因テ然ルモノ
ニシテ此境遇ニアル人民ハ大事ヲ成シ大業ヲ起ス
ノ氣力ナシ是レ其懶惰ハ即チ奴隸習ノ結果ナレハ
トリ其一ハ生計ノ便利ヲ好マサルカ或ハ之ヲ知ラ

サルニ由テ然ルモノナリ此境遇ニアル人民ハ事業
ヲ成就スルニ足ル可シ是レ其貧窮ハ即チ自由ノ一
部ニ屬スレハナリ

第四回 政体ノ異ナルニ從テ貿易モ亦同シ

カラサルノ論

商業ハ甚タ政体ノ異同ニ關涉スルモノニシテ立君
政ニ於テハ貿易ノ淵源奢侈ニ出ルモノ十中ノ七八
ニ居ルカ故ニ時トシテハ日常缺ク可ラサルノ要需
ヨリ之ヲ務ムルヲ無キニアラスト雖モ然レ氏其主
眼トシテ經營スル所ハ全ク國民ノ驕奢游樂ニ供ス
ルカ為メニ過キス然ルニ共和政ニ於テハ專ラ經濟

ノ道ニ出ルヲ以テソノ商賈ハ眼ヲ宇内ノ各國ニ着
シ其餘リ有ル所ノモノヲ齎ラシ来リテ其不足ヲ補
充スルヲ業トゼリ即チタイル、カルターヂ、雅丁、マ
ルセール、フロレンス、勿里西、和蘭ノ如キ諸共和邦ハ
皆十致々トシテ此貿易ヲ務メタルモノナリ
斯ク營々トシテ商賈ニ從事スルハ獨リ共和政固有
ノ性質ニシテ立君政ノ若キハ唯時アリテ之ヲ務ム
ルニ過キサルナリ是レ商業ノ本旨ハ大利ヲ貪ラサ
ルノミナラス自餘ノ國民ヨリモ一層其利ヲ廉ニシ
而シテ源々トシテ絶ユルヲナク以テ薄利ヲ湊集シ
テ大益トナスニ在レハ驕奢ニ任シテ揮霍シ威力ニ

仗テ矜誇スル處ノ國民^{立君}ノ敢テ斯ノ貿易ニ從事

シ能ハサル所以ナリ

シセローノ言ニ「予ハ全一ノ人民ヲシテ天下ノ主宰
タラシメ兼テ天下ノ商賈タラシムルヲ好マスト云
フニ據テ考フレハ氏ノ趣意ハ蓋シ「斯ノ如クナル時
ハ國中ノ各人(即チ舉國)皆十遠大ノ志ヲ懷キ^{天下ニ}
併セテ又銖銖ノ微ヲモ計較セザルヲ得サルカ故
ニ必ス彼此撞着スルノ甚シキヲ免レストスルニ在
リ實ニ理ニ當ルノ語ナリト謂フ可シ
艱難ニ勝チテ大業ヲ起スモ亦經濟以テ其國ヲ立ツ
ル處ノ人民ニアラサレハ能ハサル所ニシテ而シ其

剛毅ノ氣力ニ至テハ立君政ニ於テ曾テ見能ハサル
所ノモノアリ其故何ソヤ
抑モ貿易ハ其幹枝相連合スルニ非サルヨリハ決シ
テ繁榮ヲ期シ難シ然ルニ共和政ニ於テハ其小ナル
者常ニ中ナル者ノ芽甲ト爲リ中ナル者ハ大ナル者
ノ芽甲ト爲リ初メ微利ヲ得テ満足セシモ眼界日ニ
廣ク終ニハ大益ヲ希圖スルニ至レルナリ
加之商賈ノ企圖セル大業ハ必ス國事ニ關涉セサル
ヲ得サルカ故ニ自由ノ邦ニ於テハ國事ハ乃チ商賈
ノ安全ヲ保ツニ外ナラスト雖モ立君政ニ於テハ猜
疑ヲ商人ニ置カサルヲ得サレハ商法上ノ大業ハ共

和邦ニ於テ之アルモ立君政ニ得可カラサル所以ナ
リ
約シテ之ヲ言ヘハ自由ノ邦ニ在テハ人心極メテ其
財産ノ鞏固ナルヲ負恃スルヨリ諸ノ事業ヲ圖ルヘ
キ氣力ヲ生シ而シテ其希望ハ啻ニ福運ニ乘シテ大
利ヲ得ルノ一途ニ注射スルノミナラス復タ且其既
ニ得テ所有トナル所ノモノハ決シテ再ヒ動カサル
ヲ知ルガ故ニ奮然之ヲ擲テ一層ノ大益ヲ博取セ
ント欲ス即チ此國民ノ財産ハ唯物ヲ獲ルノ用ヲ為
シテ一モ危懼スルヲ无キモノナリ
予カ論スル所ハ敢テ立君政ニ經濟上ノ貿易ナク共

性質ノ之ニ偏スルヲ其政体ノ之ニ關涉ス
ルヲ多カラスト謂フニ在ルノミ

專制國ニ至テハ更ニ筆舌ヲ費スニ足ラス今左ノ一
句ヲ掲ケテ以テ之カ通則トス曰ク奴隸ニ陷ル國民
ハ物ヲ獲ル為メニ勞セスシテ物ヲ保ツ為メニ勞ス
ルヲ多ク自由ハ國民ハ物ヲ保ツ為メニ勞スルヨリ
物ヲ獲ル為メニ勞スルヲ多シ

第五回 經濟上ノ貿易ヲ營ム國民ヲ論ス

マルセールハ暗礁暴風ノ變濱海島嶼ノ勢ニ依リ波
濤ノ兇險ヲ避ケ舟楫ノ安全ヲ托ス可キノ一良港夕

ルヲ以テ古ヨリ航客ノ輻湊スル埠頭ト為リ加フル
ニ近傍ノ地磽确ニシテ農事ニ利アラサレハ竟ニ國
士ノ心ヲ一決シテ全ク經濟上ノ貿易ニ委スルニ至
レリ然リ而ノ土地天然ノ荒歉ヲ防クニハ勤勞懈ル
可ラス未開ノ人民ニ交リテ利益ヲ圖ルカ為メニハ
公直ヲ旨トセサル可ラス常ニ寬政ノ真趣ヲ領得セ
ント欲スルニハ溫和從順ナラサル可ラス約シテ之
ヲ言ヘハ風俗儉素ニシテ利薄ク業堅キ商法ニ賴リ
テ生計ヲ營ムヲ必要ナリトセリ
暴政ノ極マル所口終ニ人民ヲシテ去リテ安身ノ地
ヲ沮洳島嶼ノ間或ハ海砂岩窟ノ上ニ求メシノ轉々

以テ經濟ニ基キタル貿易ヲ養ヒ成セシテ到處皆ナ
然ラサルハ死シタイル、勿_レ居西、和蘭ノ如キ即チ其類
ナリ蓋シ此等ノ流氓ハ死ヲ必シテ生計ノ道ヲ得ス
ンハアル可ラサルカ故ニ四方ニ經營シテ遂ニ其國
ヲ建ルヲ得タルモノナリ

第六回 航海ノ業廣遠ニ及ヘル效果

國民經濟上ノ貿易ヲ經營スルニ方テ甲國ノ產物ヲ
購フノ資本ニ供センカ為メ特ニ乙國ノ商品ヲ需要
スルノ機ナキニシモアラス然ル時ニハ甲國ノ巨市
ニ依テ大利ヲ獲ルノ希望アルカ故ニ乙國ノ貿易ニ
就テハ極メテ微利ニ安スル而已ナラス又秋毫ノ益

ヲモ圖ラサルヲ往々之レアリトス即チ昔日和蘭ノ
一國ニテ獨リ歐羅巴南北諸邦ノ航海通商ヲ壟斷セ
シ時ニ方テ其北國ニ輸入セシ所ノ佛國ノ葡萄酒ハ
之ヲ買フテ以テ直接ノ利益ヲ得ルカ為メニ非ス全
ク之ヲ以テ北地ノ物產ヲ購求スルノ資本ニ供スル
ニ過キサリシヲ見ル可シ

和蘭ニ於テ特ニ海外遠洋ヨリ輸入スル商品ニシテ
其沽價ヲ問ヘハ纔カニ之ヲ購ヒ求メタル地方ノ原
價ニ過キサルモノアルハ衆人ノ能ク知ル所ニシテ
是レ其船長他ニ行商シテ歸纜ヲ解クニ方リ若シ船
脚輕キニ過キ或ハ船艙ニ餘隙アレハ則チ大理石木

料等ヲ裝載シ苟モ之ニ因テ損失ヲ招クヲ無ケレハ
則チ以テ利益ヲ得タリトスレハナリ和蘭ノ抗石水
料ニ要用ナル夫レスノ如シ
營ニ利無キ貿易ノ有用ナル而已ナラス復タ損失ア
ルモノト雖モ却テ社會ノ便益ト為ルヲアリ即チ和
蘭ニ於テ概シテ鯨漁ノ一項ハ其利常ニ其費ヲ償フ
ニ足ラサルモ而モ船舶ヲ築造スル工匠ヨリ帆索食
料ヲ供給スル商賈ニ至ルマテ皆鯨漁ヲ以テ利實ト
為シ其生業ヲ營ムカ故ニ假令海上ニ在テ時トシテ
損失アルヲ免レスト雖モ漁船ヲ艦裝スルニ於テハ
諸人ノ利益ニアラサルハ无キナリ要スルニ人類ハ

賭博ヲ好ムノ性ヲ具有スルカ故ニ極メテ小心ノ人
ト雖モ之ヲ忌惡スルモノナキ恰モ一人ノ賭博ハ財
ヲ靡シ慮ヲ焦シ憤怒ヲ招キ光陰ヲ費シ甚シキハ亡
身破産ノ禍根タルヲ記臆スルモノ無キカ如シ

第七回 英國ノ貿易ノ精神ヲ論ス

英國ニ於テ他國ノ商品ニ取ル處ノ海關稅ハ其變更
常ニ定リ無ク昨年ノ議院ニ於テ某品ノ征稅ヲ除キ
シモ今年ノ議院ニ於テハ某品ノ新稅ヲ賦シ之ニ因
テ以テ其獨立ヲ維持スルノ方策ト為セリ故ニ貿易
ノ事ニ就テハ猜疑極メテ深ク專ラ自國ノ法律ニ遵
依スル而已ニシテ他國ト義務上ノ盟約ヲ結ブヲ甚

夕魁シ

自餘ノ邦ハ商法ノ利害ヲシテ一步ヲ政務ノ利害ニ讓ラシムルト雖モ英國ニ於テハ政務ノ利害ヲ以テ商法ノ利害ニ亞クモノトセリ
而間ニ存スル所ノ三大利ヲ貴重シテ毫モ其一ニ偏セシメサルハ唯英人ニ於テ然ルヲ得ルノ三字内ヲ通シテ亦其儔ヲ見ル可ラス何ヲ三大利ト謂フ宗教、貿易、自由是レナリ

第八回 時トシテハ經濟上ノ貿易ヲ制限セサル可ラサル所以ヲ論ス

經濟上ノ貿易ヲ營ム處ノ邦國ヲ挫折スルニ最モ適

當ナル法律ヲ制定シタル王國數多アリ其法律ハ自國ノ產物ヲ除ク外一切商品ノ輸入ヲ禁制シ又其物質ヲ輸入ス可キ船舶モ特リ國內ニテ建造セルモノニ限りテ交易スルヲ許容セリ

此法律ヲ制定セル王國ハ必ス自ラ其貿易ヲ營ムニ容易ナラサル可ラス否ヲサレハソノ禁制ヲ被ムリタル邦國ト俱ニ却テ其法律ノ為メニ困窮セラル、
トヲ免レサルナリ抑モ專商ノ國民ハ大利ヲ貪ラスシテ商業上ニ於テ頗ル我レニ依頼スルノ勢アリ又規模浩大ニシテ商販ノ道極メテ廣キ國民ハ其力能ク有餘ノ物貨ヲ銷費シ殷富ノ國民ハ許多ノ物貨ヲ

求ノ目下ニ貨幣ヲ以テ之ヲ償ヒ得レハ此等ノ國民
ト互市スルニハ大ニ我カ利益トナリ殊ニ忠實ヲ旨
トセサルヲ得サルノ地位ニ居リ平和ヲ主義トシ唯
タ利是レ獲ルニ汲々トシテ曾テ國ヲ畧シ兵ヲ耀カ
スノ念慮ナキ國民ト互市交易スルノ利益ノ始終我
カ敵手ト為ル者ニ於ルヨリモ著大ナルハ固ヨリ言
ヲ俟タスシテ明白ナリ

第九回 貿易ノ制禁ヲ論ス

經濟ノ要訣ハ苟モ至大ノ理由アラサルヨリハ一ノ
國民ニシテ他ノ國民ノ之ニ貿易スルヲ禁止スル無
ニ在リ日本人ハ支那和蘭ノ二國ヲ除ク外更ニ自餘

ノ國民ニ互市通商ヲ許サ、ルカ故ニ支那人ハ砂糖
ヲ鬻テ十倍ノ利ヲ網シ復タ之ニ換ヘタル物品ヨリ
再ヒ十倍ノ利ヲ得ルト云フ和蘭人ノ所得ノ利益モ
亦敢テ支那人ニ遜ラサルヘシ何トナレハ貿易ノ物
貨ニ品位相當ノ價值ヲ付シ彼此ノ平均ヲ保ツハ唯
爭競ノ一途ニ依賴シテ始メテ然ルヲ得ヘキモノナ
ルカ故ニ日本人ノ主義ニ則トル所ノ國民ハ必ス他
國ニ欺蒙サル、ヲ免ル可ラサルナリ
互市ヲ營ム所ノ邦國ヲ制限スルノ弊斯ノ如シ然ル
ヲ況ヤ一定ノ價ヲ以テ悉皆其物貨ヲ包買セシムル
ヲ口實ト為シ一國ニ限リテ之ヲ賣鬻スヘキノ義務

ヲ約諾スルノ巨害タルニ於テヤ波蘭人カ一國ノ
永穀ヲ舉デダンナキノ市場ニ販賣シ、印度諸邦ノ酋
長モ其香料ヲ輸出スル為メニ和蘭人ト同上ノ條約
ヲ結フ其嘴矢トス等即チ其的例ニシテ此等ハ生計
ノ需要ヲ缺カサルヲ以テ自ラ満足シ更ニ富實ヲ希
圖スル念頭ヲ起サ、ルカ如キ貧國ノ人民カ然ラサ
レハ奴隸ノ境遇ニ陥リテ天賦ノ便利ヲ享用スルヲ
能ハサルモノカ或ハ有損無益ノ貿易ニ從事セサル
ヲ得サルノ國民ニ非サルヨリハ焉ソ斯ノ如キ條約
ヲ結フモノアルヲ得ンヤ

第十回 經濟上ノ貿易ノ為メニ設立シタル

制度

經濟上ノ貿易ヲ經營スル邦國ニ於テハ銀行ノ設ケ
アリテ幸ニ國信ニ依リテ新タニ一種ノ富ヲ造為ス
ルヲ得ヘシト雖モ之ヲ奢侈ニ基キテ貿易ニ從事ス
ル政府ニ採用スルハ策ノ甚タ拙ナル者ト謂ハサル
ヲ得ス何トナレハ銀行ヲ君權无限ノ邦ニ設立スル
時ハ一方ニハ權柄ヲ持セスシテ百爾ノ事物ヲ得ヘ
キ方便ヲ有スル者アリ銀行一方ニハ之ヲ得ヘキ方
便ヲ有セスシテ權柄ヲ持スル者アル君主ニ當レハ
此政体ニ在テハ君主ノ外更ニ富財ノ蓄積無ク若シ
他ニ蓄積アルヤ忽チ君主ノ掠奪ヲ免レサルナリ

特殊ノ貿易ヲ經營セシカ爲メニ商人ノ會社ヲ結フ
トモ亦同一ノ理由ニ因テ專制政ニ適當スル一甚々
稀レナリトス何トナレハ商會ノ希圖スル所ハ私人
ノ富ニ公富ノ勢力ヲ所有セシムルモノナルニ此政
体ニ在テ此勢力ヲ持スルハ特ニ君主一人ニ限ルヲ
以テナリ加之商會ハ時トシテ經濟上ノ貿易ヲ營ム
所ノ邦國ニ在テモ適當セサル一アリ是レ其商業甚
タ巨大ナラスシテ私人ノ力若シ能ク之ヲ辨理スル
ニ足ルキハ商會ニ專賣ノ特准ヲ與ヘテ貿易ノ自由
ヲ束縛セシヨリ寧口衆人ノ便ニ任スルノ良好ナル
ニ若カサレハナリ

第十一回 全上

經濟上ノ貿易ヲ營ム處ノ國內ニ於テハ出入自由ノ
港脚税關ヲ設ケヲ開キ得ハシ蓋シ各私人常ニ儉約
ヲ守ルノ果實ハ結ヒテ政府ノ經濟ト成リ貿易ノ心
魂ト成ルカ故ニ一國ノ富財勤勞ノ所出ニ賴リテ以
テ海關稅ヲ蠲免スルカ爲メニ招ク處ノ損失ヲ償補
ス可キヲ以テナリ然レモ立君國ニ於テ海關稅ヲ徵
征セサルノ效果ハ徒ニ奢侈ヲ助長スルニ過キサル
ノミナラス復タ奢侈ニ因テ得ル處ノ利益ト此政体
ニ施シ得ヘキ約束トヲ併セ失フニ至ルヲ以テ出入
自由ノ港ヲ開クカ如キハ理ニ戾リタル政術ト謂サ

ル可ラス

第十二回 貿易ノ自由ヲ論ス

抑モ商人ヲ束縛スルト貿易ヲ束縛スルトハ其事實
自ラ異ナルヲ以テ商人ニ行事自由ノ權ヲ與フルハ
決シテ貿易ノ自由ニ非ス之ヲ奴隸ニ陷ル、ト謂テ
可ナルモノナリ故ニ自由ヲ極メタル邦國ノ商人ニ
限リテ無數ノ規則ニ掣肘セラレ奴隸國ノ商人ニ限
リテ法律ノ煩苛ヲ覺ラサル可シ

英國ノ法律ハ國產ノ羊毛ヲ輸出スルヲ禁止シ海
運ニ由ラサレハ其石炭ヲ都府ニ輸送スルヲ許サス
鞆丸ヲ斷ツ為メノ外其馬ヲ他邦ニ送ルヲ得ス藩

屬地ノ船舶ノ歐羅巴ニ通商スルモノハ必ス英國ニ

來リテ食水ヲ取ラサル可カラサル等千六百六十年
制定ノ航海律

○戰時ノ外ハボストン及ヒヒラデルヒヤノ商固ヨ
人直ニ其船ヲ地中海ニ派遣スルヲ得ス

リ商人ヲ束縛スルモノナリ然レモソノ之ヲ束縛ス
ルハ全ク貿易ノ利益ヲ助長センカ為メナリ

第十三回 何物カ能ク此自由ヲ毀傷スルヤ
ノ論

貿易行ハル、處ニハ必ス税關ノ設立アリ貿易ハ國
益ヲ目的トシテ物品ヲ輸出輸入シ關稅ハ國益ヲ基
礎トシテ此ノ輸出輸入スル物品ニ課定スル處ノ權
理ナリ然ルヲ以テ政府能ク貿易ト關稅トノ間ニ中

立シ此二者ヲシテ互ニ抵觸スル勿ラシムルヲ得ハ
其國民始メテ貿易ノ自由ヲ享用スヘシ
關稅ヲ徵收スルニ方テ苟モ偏頗煩苛ノ弊アルハ
忽チ貿易ノ衰微ヲ致ス丁敢テ重稅厚斂ノ害ニ軒輊
無クシテ假令此弊害全ク無ラシムルモ若シ規則繁
縟ニ過キテ變通ノ術ヲ知ラサルハ亦以テ其衰微
ヲ招ク一ヲ免レス故ニ英國ノ稅關ハ其官吏ノ保稅師
ヲ屬セサルノ督治スル所ト為リ其事務ニ鍊熟セル實
ニ驚ク可キモノアリテ咄嗟ノ間ニ忽チ大事ヲ辨了
スレハ商人ハ其規則ヲ履行シ或ハ其繁縟ヲ避ケン
カ為メニ特ニ代書人ヲ要スルヲナシ

第十四回 商品沒收ノ貿易律

英國ノ大憲典^{マダナ}ニ強償ノ令ヲ出セル場合ヲ
除キ戰時ニ敵國商人ノ物品ヲ捕獲沒收スルヲ禁
止セリ之ヲ以テ其自由ノ一欸ニ加入セシハ豈英國
人民ノ榮譽ト謂ハサル可ケンヤ
近口西班牙、英吉利ノ兩國ニ兵端開キシ時西國ニ於
テ特ニ法律ヲ制定シテ英國ノ商品ヲ西國ノ封内ニ
輸入シ或ハ西國ノ商品ヲ英國ニ輸出スルモノヲ死
刑ニ處セリ^{千七百四十年布告}是レ日本一國ヲ除ク外宇内未
曾有ノ法律ニシテ斯ノ如キハ仁慈ノ德義ヲ破毀シ
貿易ノ精神ヲ挫折シ又民事犯ニ過キサルノ微罪ヲ

認メテ之ヲ國事犯ト為セハ刑罰寬嚴ノ中ヲ紊亂ス
ルノ尤甚シキモノト謂ハサル可カラス

第十五回 商人ヲ捕縛スル論

梭倫ノ法律ハ民事負債ノ為メニ雅典人ノ身ヲ捕フ
ヲ許サス是レ埃及ノボツコリスノ制定ニ出テセソ
ストリスノ改良ニ成リシヲ採用セシモノナリ
此法律ハ普通ノ民事ニ就テハ金科玉條トモ看做シ
テ妨ケ無シト雖モ貿易ノ事ニ至テハ必スシモ之ヲ
遵守スルヲ要セサル理由アリ
希臘ノ制法者ハ兵器
取ルヲ許サスシテ却テ人身ヲ捕フヲ其故何ソヤ
許容セリ自由ノ理焉クニカ在ルデオドリ
商人ニハ暫時ノ間大金ヲ委托シ之ヲ還シ之ヲ收メ

サルフ得サルノ時機アルカ故ニ此時機ニ方テハ常
ニ負債者ヲシテ其約定セル時日ニ於テ其義務ヲ履
行セシメサル可ラス是レ商人ノ身ヲ束縛スルノ已
ム可ラサル所以ナリ

尋常民事ノ契約ニ於テハ斷シテ人身ヲ捕フヲ許
容スルノ法律ヲ制定ス可ラス是國家民人ノ為メニ
ハ一國士ノ自由ノ重大ナル一適カニ自餘ノ國士ノ
安堵或ハ繁榮ヨリモ重大ナルヲ以テナリ然レモ貿
易上ノ契約ニ至テハ法律ニ於テ國家民人ノ繁榮ヲ
視テ一國士ノ自由ヨリモ重大ナリト為サハル可ラ
ス故ニ仁慈治安ノ道ニ於テ缺ク可ラサルモノハ貿

易上ノ契約ト雖モ束縛制限ヲ加フルモ決シテ不可ナル所無シ

第十六回 至美ノ法律

ゼネラルハーノ法律ハ其人ノ存亡ニ拘ハラス破産セルモノ、子孫ノ(其父祖ノ負債ヲ償清セサル間)官吏ニ任シ議官ニ撰マル、事ヲ許サス美ヲ極メ善ヲ盡セルト謂フ可シ此法律ノ效驗ハ商人、官吏及ヒ一府ニ信任ヲ増加シ而シテ今日ニ至ルマテ私人ノ信憑ヲ以テ一府ノ信憑ヲ維持シテ墜サハルナリ

第十七回 ロード島ノ法律

セキストス、エムピククスノ論ニ據レハロードノ人

民ハ更ニ一步ヲ進メテ凡ソ子タル者ハ其紹續ノ權ヲ放棄スト雖モ父ノ負債ヲ償フヘキ責任ヲ免レ得スト此法律ハ經濟ヲ以テ建國ノ基礎ト為セル共和政ノ治圖ニ出デシモノト雖モ予ハ貿易ノ理ニ據リ茲ニ一ノ制限ヲ立テ、凡ソ父ノ負債ニシテ其契約ハ其子ノ已ニ商業ニ就ケル後ニ係ルモノハ以テ其子ノ得有セル財産ニ累及セサランヲ欲スルナリ蓋シ商人タル者ハ常ニ其當サニ務ムヘキノ本分ヲ識得シ且現在ノ情實ニ應シテ其業務ヲ經營セサル可ラサルヲ以テナリ

第十八回 商法裁判官ヲ論ス

ゼノフオンハ其著セシ所ノ國入編ニ於テ速々ニ其
擔當ノ案件ヲ辨了シタル監商官ニ褒賞ヲ與フヘキ
ヲ論シタリ氏ノ論ノ若キハ今日ニ領事裁判ノ須
要ナルヲ預言セシト謂モ妨ケナシ
貿易ノ案件ハ畧式ヲ以テ辨了スルモノ多ク梳子一
日ノ行勢ニ過キサレハ日ニ其起ルヲ俟チテ直チニ
之ヲ裁決セサル可ラス然レモ民生ノ案件ノ如キ重
大ノ効力ヲ將來ニ遺スモノハ甚タ稀有ノ事ニシテ
乃チ婚姻遺書ノ如キハ殆ト一生一回ニ止ル者ナリ
プラトールカ海運ノ貿易ヲ營サル府邑ノ民法ハ他國
ノ一半ヲ超ユ可ラズト言ヒシハ確論ニシテ蓋シ各

種ノ人民廣集スルヨリ多數ノ契約出来シ凡百ノ貨
物輻輳スルヨリ之ヲ得ルノ方法各異ナル皆ナ貿易
アルニ因テ然ルヲ以テナリ故ニ貿易ヲ經營スル府
邑ニハ法律極メテ多ク裁判官甚タ勤キヲ常トセリ
第十九回 君主親ヲ貿易ヲ營ム可ラサル
ヲ論ス

羅馬ノ東帝デオフィルス其皇后テオドラノ貨物ヲ載
セタル商船ヲ見テ則チ敕ヲ下シ之ヲ焚カシメテ曰
朕ハ天子ナリ然ルニ汝何ソ朕ヲニテ商船ノ長タラ
シム若シ至尊ヲ以テ臣庶ノ貿易ヲ奪ヒタラシニハ
貧民ハ夫レ何ニ頼リテ其口ヲ糊ス可キヤト然ルニ

予ハ又帝ノ為メ更ニ數語ヲ加エテ朕ニシテ果シテ
人民ノ商業ヲ壟斷セハ誰アリテ能ク朕ヲ約束スヘ
キソ誰アリテ能ク朕ニ義務ヲ履行セシム可キノ寵
臣權官皆ナ朕ノ行為ニ倣フ可シ其偏頗ニシテ貪婪
廢クナキハ更ニ朕カ躬ヨリ甚シキモノアラシ且人
民ノ望ヲ朕カ躬ニ属スルハ公義ノ道ヲ信任スルモ
ノニシテ億兆需要ノ原因タル此等數多ノ義務ハ乃
チ朕カ義務タルノ明徴ナリト言ハント欲ス

第二十回 全上

曾テ葡萄牙人加斯帝里人 西班牙カ東印度ノ商權ヲ
獨有セシ時ニ方テ貿易ノ利極メテ著大ナルヨリ遂

ニ君王ノ專領スル所ニ歸シ之ニ因テ属地ノ衰頹ヲ
招キタリ

ゴーノ准王曾テ特別ノ人ヲ撰ミテ之ニ專商ノ特權
ヲ與ヘ若シ人民ノ其人ヲ信セサルハ忽チ之ヲ變
換セシカ今日之ニ任シ来日之ヲ黜ケ終ニ一人ノ改
良ヲ慮ルニ暇アラサルカ故ニ貿易全ク衰微セリ約
シテ之ヲ言ヘハ利益ヲ擴充スルナク專ラ之ヲ國
王ノ手ニ湊取スレハナリ

第廿一回 立君國ニ於テ華族ノ貿易ヲ營ム
ヲ論ス

立君政ニ於テ華族ニ商賈ノ業ニ從事セシムルハ最

モ貿易ノ精神ニ乖戾セリホノリユス帝及ヒテオト
シユス帝ノ言ニ曰ク華族ニ貿易ヲ營マシムルハ都府
ニ害ヲ貽シ商人平民ノ賣買ニ阻碍ヲ置クモノナリ
ト
華族ニ商業ヲ許スハ亦立君政ノ精神ニ乖戾セリ故
ニ英國ハ此慣習ヲ以テ大ニ其立君政ノ式微ヲ致シ
タル一原因ト為セリ

第廿二回 特格ノ考論

或國ノ習俗ニ心醉セル論者ハ我カ佛蘭西ニ於テモ
華族ニ貿易ヲ營マシムヘキ法律ノ制定アラントヲ
主張セリ然リト雖モ此法律ヲ制定スルハ啻ニ商業

ノ利益ト為ラサル而已ナラス適以テ華族ヲ滅絶セ
シムルノ方便タルニ過キサル可シ抑モ此國ニ於テ
ハ商人ニシテ華族ニ封セラレ得ヘシト雖モ原來華
族ニシテ商業ニ従事スルモノナキカ故ニ商人ノ實
際ノ不利ヲ蒙ラスシテ專ラ華族ノ榮爵ヲ希望シ之
ニ達スルノ大道ハ經營其宜シキヲ得テ勝利ヲ奏シ
巨富ノ果實ヲ收ムルニ外ナラス實ニ啄ヲ容ル可ラ
サル習俗ナリ

各人ニ其職業ヲ改ムルヲ許サスシテ必ス之ヲ子
孫ニ續カシムルノ法律ハ一人ノ其才カヲ競争スル
無キ專制國ニアラサルヨリバ之ヲ施シテ其用ヲ為

サ、ルナリ
各人已レノ職業ヲ止メテ他ノ職業ニ轉シ能ハサル
ノ時ヲ以テ巧妙ヲ極ムルノ時ト言フヲ勿レ己レニ
優レル技術ヲ學ハント欲シテ其長技ヲ棄ツル時ハ
即チ進歩ノ徵候ナリ
貨幣ヲ將テ名爵ヲ買ヒ得可キ制度アルヨリ商人ノ
心ヲ激勵シテ朱紫ノ榮ヲモ博取スヘキ地步ニ到ラ
シメン丁蓋シ亦夥シトセス但シ金銀ヲ以テ懿德ノ
價名爵ヲ賣買スルノ果シテ公義ノ道ニ適スリヤ
否ノ如キハ敢テ予カ論斷ヲ下ス所ニアラスト雖モ
亦之ヲ施行シテ其效用ヲ得ヘキノ政府無シト謂フ

ヘカラス

然ルニ我カ佛蘭西ニ於テハ長袍ノ紳士（接）法律ヲ以
テ侯伯ノ世家ト庶人ノ中間ニ置キ敢テ之ニ賜フニ
閥閱ノ尊爵ヲ以テセスト雖モ亦其特准殊典ニ沐浴
セシムレハ當器ノ人ハ法律ノ藏府ト成リテ榮譽ニ
環繞サル、カ故ニ社會ノ私人ヲシテ中等ノ貴顯ヲ
占得セシムルノ地位ト為リ苟モ才德兼備シテ能ク
衆ニ卓絶スルニアラサレハ決シテ之ニ堪ウ可ラサ
ルナリ（接）當時法律學士ニシテ法院ノ議官ニ任セル
者ハ終身間ノ貴族ニ叙セラレ世襲貴族ト並
列セ又此他ニ一層光榮ナル進路ノ尚武ノ貴族ト云
フアリ此地位ニ居ル人ハ其所有セル富財ニ賴テ更

ニ其分限ヲ増ス可キヲ知ルアリ或ハ敢テ其財産ヲ
浪費セサルモ固ト其富ノ増加スルヲ希圖セサルア
リ或ハ常ニ一家ノ儲蓄ヲ盡シテ國君ニ事ヘ以テ自
餘ノ入ヲ鼓舞シテ之ヲ學ハシムルアリ或ハ怯懦ノ
名ヲ得ンヲ愧テ奮然戰場ニ赴クアリ或ハ已ニ富
利ヲ希望シ能ハサル片ハ轉シテ名爵ヲ冀圖シ若シ
名利ニツナカラ得ヘカサル片ハ其身ニ榮譽ヲ博
シタルヲ以テ自テ其心ヲ慰ムルアリ以上ノ數者相
合シ始メテ能ク我カ王國ノ富強ヲ助長スルニ缺ク
可ラサル元行トナレリ而シテ此元行二三百年ノ間
絶ヘス其勢力加フルアリテ減スルヲナキハ決シテ

隆替無常ナル富財ニ頼リテ然ルニアラス特リ律例
制度ノ善美ヲ盡シタルニ由ルモノナリ（後佛國ニ賣
度ナキヲ
辨明ス

第廿三回 貿易ハ如何ナル國民ニ害アリト
スル耶

富ハ土地 不動産 及ヒ運搬スヘキ物件ヨリ成ルモノ
ニシテ凡ソ一國ノ土壤ハ通常其住民ノ所有ニ屬ス
ルヲ以テ各國多クハ外國人ニ之ヲ買得スルノ志意
ヲ起サシメサルノ法律ヲ制定シ且所有主其地ニ居
住セサレハ改良ノ功ヲ期ス可ラサルヲ以テ各國皆
ナ之ヲ人民ニ分賦セリ然レモ動産ハ貨幣、証券、滙票

會社ノ株式器具商品等ノ如キ全世界ノ共有ニ屬スルモノナレハ此見点ニ於テハ世界一國人民一家ト假定セリ然ルヲ以テ國民ノ殷富ハ乃チ自餘ノモノヨリモ多數ノ動産ヲ所有スルノ謂ニシテ各國人民ノ貪欲ナル或ハ其物貨ヲ交易シ或ハ其技術ニ盡力シ或ハ勤勞ニ依リ或ハ發明ニ依リ或ハ徼倖ノ利市ニ依リテ始終宇内ニ散布セル此動産ノ為メニ相爭ヒ相鬭テ盡期アル無シ○若シ夫レ不運ノ邦國アリテ他邦ノ動産ヲ取ルニ由シ無ク而モ自國ノ動産ハ殆ト皆無ニ歸セントスルニ至レハ其剩ス處ノ土壤モ亦遠ラスシテ外人ノ所有トナリ地主ハ其植民タ

ルニ過キサルニ至ル可シ果シテ然ラハ此國ノ如キハ物貨ニ缺乏スルモ物貨ヲ得ヘカラス外人ト貿易ヲ營ムモ自ラ其貧弱ヲ益スニ外ナラサレハ初メヨリ斷然關ヲ閉チ豆市ヲ絶ツノ却テ國民ノ肩ヲ息クスルニ若カサルナリ輸入其輸出ニ超ユル處ノ邦國ハ其不足スル額數即チ國富ノ損耗タルヲ以テ輸入ノ物貨月二年ニ減少シ終ニ貧窮極マリ其力一物ヲモ購ヒ能ハサルニ至テ止ム貿易ニ巧ミナル諸國ニ於テハ驟カニ金銀ノ散スルヲアリト雖モ日ナラス復タ聚アリテ再ヒ其舊ニ復

スヘシ是レソノ之ヲ得ル所ノ外人ハ復タ我ニ債ヲ
負フカ為メニ終ニ之ヲ還サハルヲ得サレハナリ然
ルニ前文ノ如キ邦國ニ於テハ外人曾テ其債ヲ負フ
モノナキカ故ニ一タヒ其手ニ入ルルハ決シテ再ヒ
歸ルノ期無シ

波蘭ハ其土地ニ出産スル禾穀ヲ除ク外宇内ノ通貨
タルヘキ物品ヲ所有スルヲ甚タ尠ク而シテ侯伯ノ大
家廣大ナル土壤ヲ占領シ領内ノ百姓ヲ壓制シテ過
當ノ禾穀ヲ収歛シ之ヲ外國ニ輸送シテ奢用ノ物品
ヲ購求セシト是レ其的例ニシテ實ニ波蘭ノ百姓ハ
外國ノ貿易アルニ因テ貧苦ノ域ニ陷ルト謂テ可ナ

リ何ソヤ若シ外國ノ貿易ナキ時ハ奢用品ヲ得ルニ
由ナキヲ以テ貴族ノ需要ハ禾穀ニ止マリ百姓ハ聚
歛ノ暴ヲ免レテ輒ク其生計ヲ營ムヲ得可ク又貴
族ノ領地廣大ニ過キテ却テ其不便ヲ覺フニ依リ之
ヲ割キテ自ラ百姓ニ耕種セシムルハ各人其牲畜ノ
皮毛ヲ以テ防寒ノ具ヲ製シ更ニ大金ヲ擲テ衣服ヲ
購フヲ要セサル可ク且奢侈性ト為ル處ノ貴族ニ於
テモ本國ヲ除キテ他ニ其奢用品ヲ求ムル處ナキヲ
以テ自ラ貧民ヲ獎勵シテ工業ニ從事セシメ遂ニ一
國ノ繁榮ヲ致ス可ケレハナリ但シ外交ヲ絶ツキハ
民俗粗野ニ傾クノ弊アリト雖モ此弊ハ法律ヲ以テ

防制スルヲ得ヘキナリ
續テ日本ノ景況ヲ掲出セン抑此國ノ輸入ノ斯ク非
常ニ夥多ナル所以ハ必竟其輸出スル處モ亦甚タ大
額ナルニ由テ然ルモノニシテ若シ其出入ヲ乘除ス
レハ殆ト其差ヲ見サルニ至ラン斯ノ如ク國ニ餘財
海外ニ輸出アル所ノ利益ハ多々枚舉スルニ暇アラ
スト雖モ今其一二ヲ舉ケンニ消費ノ路益開ケ、技術
ヲ施スヘキ物品相増シ、多數ノ工手ヲ要シ、國力ヲ得
ルノ方便ト為リ又其國家ニ不虞ノ警アルニ方テ國
民殷實ナレハ其燃眉ノ急ヲ濟フニ甚タ容易ナルカ
如キ是レナリ夫レ一國ノ經濟ニ於テ一モ無用物ナ

カラシムルハ固ヨリ爲シ難キ事ナルカ故ニ貿易ノ
經營ニ因テ以テ無用ヲ轉シテ有用ト爲シ有用ヲ轉
シテ必用ト爲シ務メテ國民ノ多數ニ必需品ヲ受用
シテ缺乏ノ憂ナカラシメサル可カラス
貿易ニ因テ損失ヲ招クハ一切ノ物貨ヲ需要セサル
ノ國民ニアラスシテ一切ノ物貨ヲ需要スルノ國民
ニ在リ故ニ關ヲ閉チ互市ヲ止メテ利益ノ得ヘキハ
物貨ニ富メル國民ニアラスシテ物貨缺乏ノ國民ニ
在リ

萬法精理卷之二十畢

明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何 禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

芝太神宮前三島町

日本橋通三丁目

南傳馬町二丁目

島村利助

山中市兵衛

丸家善七

穴山篤太郎

發兌
書林